

平成4年度 農林水産補助事業  
日本住宅・木材技術センター事業

# 平成4年度木材技術専修センター事業 研修企画運営委員会報告書

平成5年3月

財団法人 日本住宅・木材技術センター



平成4年度 農林水産補助事業  
日本住宅・木材技術センター事業

# 平成4年度木材技術専修センター事業 研修企画運営委員会報告書

平成5年3月

財団法人 日本住宅・木材技術センター



## はじめに

「21世紀の住宅建設を考える」といっても、既に後10年をきるといった時代の中で、木造住宅を中心とした住宅建設の将来は決して楽観しうる状況にありません。

その理由の一つとして、人口構造の高齢化、出産人口の減少などからくる、絶対的な労働者不足の問題があります。今後、わが国の社会経済がさらに発展していくと、その労働人口の多くは第3次産業に吸収されてしまうだろう、と予測されています。

こうした状況の中で、木造住宅の中心的担い手である大工・工務店の大工技能者の不足と新規入職希望者の減少、及び建築物に対する需要の多様化、高度化等いわゆる需要環境の変化に対する対応力の問題は、今後さらに大きな課題となると考えられます。

そして、このことは、同時に木造住宅に関連する資材供給を目標に育成を続けている国内林業への影響も懸念されるところであります。

木材技術専修センター事業は、このような背景のもとに、平成3年度より木造住宅供給の中心的な担い手である大工・工務店が高循環な事業環境を再構築し、木造住宅建築の担い手等の育成の一助となることを目的とし、

- ①新規入職者への対応
- ②大工・工務店に対し新知識・新情報の提供
- ③       〃           の経営手法のあり方
- ④       〃           の後継者育成問題
- ⑤設計者、施工者、関係業界との木構造設計技術研究

等を主眼におき、研修会または講習会を実施しながら木造住宅建設の担い手の育成及び新技術普及等の推進に努めてまいりました。

研修等は、全国各地において実施を希望するグループを単位に集合型式により行い、カリキュラムは研修企画運営委員会の方針に基づくほか現地の意向をも取り入れる形で編成のうえ実施しております。

ちなみにその実施状況をみますと、平成3年度は全国で18カ所、平成4年度は27カ所と増加の傾向にあり、研修等に対する関心が高まってきたものと思われまます。

このような試みは、これまでなかったことであり、その意味では、実に貴重な知識や情報が担い手側にもたらされたのではないかと考えております。

本事業の今後の課題は様々であります。関係各位のご理解とご協力を得まして本事業が木造住宅建築の担い手等育成の柱の一つに成長していくことを祈念しております。

本書は平成4年度の成果をまとめたものであります。この間ご指導ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げますとともに今後とも専修センター事業の推進に一層のご支援をお願いいたします。

平成5年3月

財団法人 日本住宅・木材技術センター  
理事長 下川 英雄

## 目 次

はじめに .....	1
まえがき .....	5
委員会名簿 .....	6
第1章 木材技術専修センター・平成4年度実施研修会 .....	7
1. 木材技術専修センター事業概要 .....	7
1-1. 背景及び主旨 .....	7
1-2. 事業の内容及び実施事項 .....	7
1-3. 木造建築担い手育成研修 .....	7
1-4. 木構造設計技術講習会 .....	8
2. 木材技術専修センター事業としての木造建築担い手育成研修 .....	11
2-1. カリキュラムの種類 .....	11
2-2. 本年度カリキュラムの分類 .....	11
2-3. 総合型カリキュラム .....	13
2-4. 平成4年度実施上の問題点 .....	14
2-5. その他実際上での問題点 .....	15
木造建築担い手育成研修プログラム .....	17
設計技術者への木構造技術研修プログラム .....	40
第2章 受講者アンケート結果から見る担い手研修事業 .....	43
1. 受講者の住まい .....	43
2. 受講者の男女比 .....	43
3. 受講者年齢 .....	43
4. 受講者の業種 .....	43
5. 主な建築物 .....	45
6. 供給規模 .....	45
7. 研修会への全体評価 .....	45
8. 「良くない」理由 .....	47
9. 希望開催日 .....	47
10. 開催希望時期 .....	47
11. 希望するテーマ .....	47
12. 次回への参加意向 .....	49
第3章 専修センター事業担い手育成研修会の今後の課題 .....	51
1. 受講対象者の明確化の必要性 .....	51
2. 講義内容の非整合性 .....	52
3. 担い手育成研修会プログラムの今後 .....	52
4. 運営計画 .....	53
参考資料 .....	55
1. 工業高校における建築技能教育－熊本県立球磨工業高校建築科 .....	56
2. 杜氏育成－新潟県立吉川高校醸造科 .....	68
3. 木造建築担い手研修受講者アンケート結果 .....	76
①宮城/77 ②福島/83 ③東京/84 ④静岡/95 ⑤福井/96 ⑥滋賀/97 ⑦兵庫/99	





## ま え が き

平成4年度木造建築担い手育成研修事業は全国22都道府県で実施され、延べ4,473人が参加している。うち10カ所は今回初めての開催で、年毎に開催回数も参加人員も増えつづけている。今回実施したところ全てで来年度も引き続き実施要望があるところからすると、さらに拡大が予測されるのである。研修プログラムは多様化しており、従来基本型としてきた技能・技術・工務店経営などの総合啓発型のほかに、例えば女性専科の新設、プレカット工場の現地研修、プレハブ型現場の現場研修、大規模木造建築、伝統的社寺建築の現場検討などが新しく試みられている。参加者は大工・工務店を主としているが、地域によっては建築士、自治体担当者などが含まれる。

このようにして研修事業は3年度目にして定着したと見られる。また、未だ実施していないところがあること、継続期待の強いことからして、なお発展の可能性が大きいと見られるのである。

木造軸組工法を中心とした伝統技能の世界は、需要者のなお根強い支持がある一方で、若年労働者の流入不足、高齢化が進んでいる。各種の職業訓練、技能者養成事業など建設部門の人材確保・育成も、将来を発展した大きな流れの主流を見出したとは言い難い。多くの困難と挫折がそこにはある。こうしたなかであって、木造建築担い手研修は比較的短期の講習会中心であるものの、地域の工務店・職人に迎えられ、需要者も含めた地域社会に受け入れられている。今はまだ大きな流れとは言い兼ねるとしても、やがて他の様々な動きと合して、巨大なそれを形づくることが期待されるのである。

研修企画運営委員会  
委員長 古川 修

## 研修企画運営委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

委員長	古川	修	工学院大学建築学科 教授
委員	太田	邦夫	東洋大学工学部 教授
	藤澤	好一	芝浦工業大学建築学科 教授
	谷	卓郎	職業訓練大学校建築学科 教授
	吉沢	健	(社)全国中小建築業団体連合会 常務理事
	西谷	嘉寿夫	(社)全国木材組合連合会 専務理事
	中村	喜三郎	(社)日本建築大工技能士会 専務理事
	野辺	公一	㈱オプコード研究所 所長
	林	裕司	全国建設労働組合総連合 技術対策副部長
協力委員	三村	龍圓	林野庁林政部林産課 課長補佐
	塚田	市朗	” ”
	河野	元信	建設省住宅局木造住宅振興室 課長補佐
	淡野	博久	” ” 係長

# 第1章 木材技術専修センター・平成4年度実施研修会

## 1. 木材技術専修センター事業概要

### 1-1. 背景及び主旨

わが国の木材需要中枢は建築用材であり、今後充実してくる国産材資源を有効利用していくためには、木造住宅の振興が緊要の課題となっている。

しかしながら、木造住宅を取り巻く状況は、木造住宅建築の担い手である大工技能者の労働力不足が顕在化し、また若年労働力の減少と高齢化が進むなかで技能の衰えが懸念されるなど、現状の木造住宅供給組織の先行きには深刻なものがあり、諸般の対策が望まれているところである。

現状をふまえ本事業においては、木造住宅建設の担い手の育成に重点をおき、新規参入者の育成、現存技能者のレベル向上に役立つ研修のほか木構造設計技術講習を実施し、ひいては、地域における国産材資源の有効な利用促進に資するものとする。

### 1-2. 事業の内容及び実施事項

地域材住宅部材化活動促進事業

事業主体：(財)日本住宅・木材技術センター

#### 1-2-1. 木材技術専修センター事業

##### ①研修企画運営委員会

研修企画運営委員会は学識経験者、木材関連業者、建設業者、研修担当者等を構成員とし研修実施に必要なカリキュラムの編成方針並びに所要の指導助言を行う。

##### ②木造建築担い手育成研修

大工等技能者の減少、高齢化、技能の低下等に対応した在来軸組工法住宅建築の担い手の育成並びに技能の向上を図るための研修を行う。

##### ③木構造設計技術講習

設計技術者の木構造設計技術の向上を図るための講習を行う。

事業の実施については関係省庁・都道府県及びその関係機関と連携を図りながら住宅・木材関係団体（全建連・全建総連・木住協・ビルダー協会・技能士会・全木連・設計集団・地域協力者等）との共催または協賛を得ることとする。

### 1-3. 木造建築担い手育成研修

#### 1-3-1. 方針

技能者の育成及び技能向上については、次のことを基本とする。

- ①新規入職希望者を対象とするガイダンスまたは訓練に必要な研修
- ②現存技能者の技能レベルアップまたは意識の高揚に必要な研修
- ③大工・工務店の2世等を中心とする技能・経営についての研修

#### 1-3-2. 実施単位

事業に賛同・協力を得られる団体及び地域協力者と連携、各都道府県1グループ程度を目標とする。

#### 1-3-3. 研修計画

##### 1)プログラム

標準カリキュラムに団体及び地域の意向を加え編成する。

##### 2)構成

###### ①集合型

ア. コースの設定は、概ね次のように設定することを基本とし具体的には関係団体等と意思疎通を図り地域の実情に即した型で設定する。

(ア) 集中型：日（午後）～土（午前）の丸4日間

(イ) 土日型：土日の4日間

(ウ) 日曜型：日曜日のみ（または土のみ）の4日間

(エ) その他：地域の実情に対応した受講者の参集しやすい型

イ. 上記は実質4日間を単位として約1カ月で完結することを原則とするが地域の実情が、これによりがたい場合には弾力的運用を図る。

ウ. 研修は一定の場所（現地見学を除き）で、50人程度を対象として行う。

###### ②個別型

協力を得られる棟梁へ数名を対象に長期間教育

##### 3)事業の運営

ア. 事業の実施について住木センターは研修内容の整備・準備及び運営等を行う。

イ. 関係団体には地域における研修が円滑に運ぶよう協力をお願いする。

#### 1-3-4. 平成4年度実施研修会

平成4年度の実績については表-1としてこれをまとめた。

#### 1-4. 木構造設計技術講習会

##### 1-4-1. 実施方針

近年経済社会の成熟化に伴って、建築物に対する需要の内容は、一段と多様化、高度化する傾向を強めており、このような中で、木材のもつあた

表一 1 平成4年度 木造建築担い手育成研修実施状況

(凡例) \*印は初回目

地域	期 間	日数	参加延 人員	名簿登 録人員	プログラムの概要	実 施 状 況	場 所
北海道	2/24 ~ 2/25	* 2	311	311	地域行事と共催型	全道建築家指導員研修大会と共催で盛況	旭川市 旭川パレスホテル
岩 手	2/27 ~ 3/13	* 3	74	52	地域特性を盛り込んだ総合型	建設技能者のうち30~40才代の中堅を対象とする	盛岡市 盛岡地域職業訓練センター
宮 城	9/12 ~ 11/28	6	462	122	女性専科が新設された	女性参加者は熱心に聴講、積極的意見あり	仙台市 宮城地域職業訓練センター
福 島	11/11 ~ 11/20	* 4	206	103	初回基本型	浜通り・中通りの両地区に分けて実施、盛況	いわき市 新舞子ハイソフ郡山市 郡山会館
群 馬	2/20 ~ 3/14	4	211	60	地域行事と共催型	群馬県建築業組合連合会技能研修者も含めて実施してきた	伊勢崎市 伊勢崎地域職業訓練センター
東 京	10/3 ~ 10/31	4	282	155	現地研修を取り入れた	大規模木造建築の現地検討会を含め好評	東京都 東京都中小企業会館
新 潟	11/18 ~ 11/19	* 2	205	162	地域型技能者養成に力点	乙室寺方丈殿建設現地研修を含め好評	新潟市 新潟県庁会議室
石 川	2/3 ~ 2/24	4	192	73	地域特性を盛り込んだ総合型	石川県住宅センター傘下の大工・工務店を対象に実施	金沢市 石川県森林文化ホール
福 井	1/20 ~ 2/3	* 3	196	104	アレカット工場現地研修実施	木材業（工務店兼）が活力を得た。好評	福井市 木材会館
長 野	10/16 ~ 2/26	4	192	48	技能・技術・経営の総合型	大工・工務店・建築士等を対象に実施してきている	長野市 長野県林業センター
静 岡	2/12	* 1	152	127	工務店活性化に力点	大工・工務店（木材業者を含む）・建築士等、会場満席の盛況で好評	静岡市 静岡県産業経済会館
滋 賀	3/6 ~ 3/13	* 3	213	134	初回の試み、他県例参考型	大工・工務店・建築士等を対象に実施	大津市 滋賀県林業会館
京 都	5/21 ~ 8/1	5	726	726	京都らしい住まいづくりに重点	大工・工務店を対象に昨年度に引き継ぎ実施。好評	京都市 京都市社会教育総合センター
兵 庫	3/4 ~ 3/5	2	92	52	地域特性を盛り込んだ総合型	大工・工務店を対象に実施	神戸市 兵庫県中央労働センター
奈 良 1	10/6 ~ 10/27	4	142	38	地域性を盛り込んだ総合型（夜学）	大工・工務店を対象に実施。好評	桜井市 あるぼーる
奈 良 2	1/16 ~ 1/30	3	198	86	現地研修を取り入れた	積水ハウスの生涯住宅現地研修を含め好評	橿原市 奈良建築高等職業訓練校
岡 山	9/26 ~ 2/5	* 3	111	71	アレカット工場現地研修実施	大工・工務店を対象に実施	岡山市 山佐本陣
山 口	12/16 ~ 3/5	* 4	179	72	技能・技術・経営の総合型	大工・工務店を対象に実施してきている	宇都市 ウッドプラザムラタ
大 分	10/28 ~ 2/5	4	200	174	住宅月間に合わせた新しい試み	大工・工務店・設計士・県市町村関係者を含めて盛況	大分市 大分市コンパルホール
宮 崎	1/22 ~ 2/12	3	195	110	技能・技術・経営の総合型	大工・工務店・設計士・県市町村関係者を含めて盛況	宮崎市 宮崎地域職業訓練センター
鹿児島	1/27 ~ 1/28	* 2	134	67	初回の試み。他県例参考型	大工・工務店（製材業者を含む）・建築士・県市町村担当者の参加を得て好評	鹿児島市 鹿児島県文化センター
計		7 0	4,473	2,638			

表 - 2 平成4年度 木構造建築物設計施工講習会実施状況

地 域	期 間	日 数	参加者数	参加者の業種	場 所
岐 阜	4年7月26日 ～ 7月28日	3	75 (延225)	建築工学科系 大学生	岐阜県大野郡高根村 (久々野高山営林署 野麦従業員寄宿舍)
宮 城	5年2月3日	1	116	設計・施工者 他関係業者	仙台市 (エルパーク仙台)
北海道	5年2月10日	1	63	〃	札幌市 (カール2.7道民活動センター)
宮 崎	5年2月19日	1	98	〃	宮崎市 (ひまわり荘)
千 葉	5年2月23日	1	126	〃	千葉市 (千葉商工会議所)
福 井	5年3月9日	1	88	〃	福井市 (福井建設会館)

たかさなど、その特有の長所を建築物に活かしていきたいとするニーズが著しく高まりつつある。こうした要請に応じて、木構造に関する研究開発は著しく進展しており、新しい技術が次々に開発されている。

これらの研究開発の成果を基礎に、昭和62年には、大断面木構造や木造3階建て住宅の技術基準が制定された。

また平成4年3月には、木造3階建共同住宅、木造の準耐火建物等の技術基準が制定される等、木構造を取り巻く技術は、最近極めて激しい動きを呈している。

こうした状況に鑑み、関係団体と提携して木造建築物の構造計画、接合等についての最近の技術を普及するため、著名な建築家及び研究者を招き、設計者・施工者・その他業界関係者を対象に講習会を開催する。

#### 1-4-2. 平成4年度実施技術講習会研修

平成4年度の実績は表-2としてこれをまとめた。

### 2. 木材技術専修センター事業としての木造建築担い手育成研修

#### 2-1. カリキュラムの類型

本研修事業を分類すると、期間と受講対象者で分類することができる。このことを示したのが表-3「木材技術専修センター平成4年度実施講習会のタイプ分類」である。即ち、開催のスタイルとしては、短期型-集中開催型、短期型-分散開催型となっており、本年度は長期型研修は実施されなかった。

また受講対象者は、

- ①現業対象型
- ②現業大工・工務店二世対象型
- ③各職を含めた伝統継承講座型
- ④現業女性

の4つのタイプとなっている。

表-3見てもわかるように、開催スタイルは、集中型、分散型はあるにしても短期型であった。また、講座設定における受講対象者は、現在の大工・工務店の経営主と従業員の新知識習得を目的とした経営、新技術、技能育成を内容としたものが過半であった。

本年度の新たな試みとしては、宮城県で実施された「ウーマンズビルダー」コースである。工務店主の妻やそこに働く女性などを中心として、木造住宅の分野における女性活用を高める目的の一環として実施された。

#### 2-2. 本年度カリキュラムの分類

本年度実施されたカリキュラムを分類すると、以下のようなタイプに分

表－3 平成4年度木造建築担い手育成研修会実施タイプ一覧

講習会開催 スタイル	延べ 日数	延べ 時間	講座 駒数	受講対象者				
				現業	現業2世 中心	伝統継承 各職含む	女性・その 他	
短期 型	開催日 集中型	2	4.5	4	北海道			
		2	7.1	6	新潟			
		1	5.2	3	静岡			
		3	15.5	10	滋賀			
		2	7.8	7	兵庫			
		2	11.2	8	鹿児島			
	開催日 分散型	3	14.5	9	岩手			
		6	36	18		宮城		
		4	19.5	14	福島			
		4	20.8	17	群馬			
		4	17.1	7	東京			
		4	19.8	12	石川			
		3	14.5	9	福井			
		4	23.8	9	長野			
		5	12.5	11			京都	
		4	8	4	奈良(1)			
		4	17	8	奈良(2)			
		3	12.6	6	岡山			
		4	22.5	11	山口			
4	19	12	大分					
3	15.8	10	宮崎					



類することができる。

①総合型

生産、設計、施工、経営、市場環境にかかわるカリキュラム構成

②技術情報重点型

木構造、プレカット、木造3階建て、断熱基準等の新しい技術情報の提供を主力としたカリキュラム構成

③市場潮流把握型

高齢者住宅、リフォーム、住まい手ニーズの変化等住宅供給における比較的新しい対応課題をトピックス的に提供するカリキュラム構成

④二世・女性戦力育成型

工務店に求められるソフト力の強化を主眼として、地域工務店のこれからの戦略を考えるカリキュラム構成

⑤伝統技能継承型

伝統的な木造住宅技能の継承のために大工、左官、屋根等大工技能にこだわらず広く技能継承のためのカリキュラム構成

⑥地域課題対応型

地域の固有性に対応した新たな住宅工法技術や住宅部品などについての情報提供を中心としたカリキュラム構成

の6つに分類することができる。ただし、④及び⑤は昨年度から継続的にカリキュラムが編成されており、その意味では専修センター事業の中ではある種の「学校」的な形で進行しているものである。本事業が5年間の継続を予定した事業であることを考えると、カリキュラムの継続によって、より大きな形での総合型を形づくることのできる可能性をみせるタイプといえる。

それ以外の20の研修会は本質的には、①総合型カリキュラムが中心であるが、研修時間等の問題から、総合型のいずれかにカリキュラムをシフトすることによって、他の5つに分類される形になっているといえることができる。また、これにプレカット工場見学など、見学会カリキュラムも組み込まれている地域もある。

### 2-3. 総合型カリキュラム

総合型を基本としたカリキュラム内容が基本となっていることを先にみたが、以下に総合型カリキュラムの1例を想定してみた。

- ①生産系 プレカット材導入と求められる生産システム  
木造住宅の合理的生産システムの検討
- ②設計系 木造3階建て住宅の構造入門  
新しい木構造の考え方と木質材料  
新しい設備・建材の製品情報と住まい手ニーズ
- ③施工系 高断熱・高気密住宅の考え方と施工ポイント  
国産材の特性と乾燥材活用のメリット  
さしがねの技術  
大型木構造の継手・仕口
- ④経営系 若手技能者養成上の取り組み課題  
住宅ニーズの動向と工務店のこれからの供給戦略  
工務店における女性活用の方向性と課題
- ⑤環境系 高齢者対応住宅供給に求められるポイント  
リフォーム市場の動向と受注システム  
木造住宅供給と環境問題－廃材処理などをめぐって
- ⑥情報交換系 受講者間の情報交流と意見交換会

以上が総合型としてのカリキュラム定型ということが出来る。即ち、①～⑥の系総ての情報・知識提供が総合型である。しかし、地域でのこうした総合型及びそれに分類されるカリキュラムは、誰にどのような目的で講習会に参加してもらうのか、といった目的意識が希薄な部分も一部見られ、いわば地域における対工務店イベントといった形で終わる可能性が高い。従って、いわばノルマ消化的な部分があり、担い手育成研修の目的が分散化する傾向は否めない。

しかし、現実的な運営等を見る限り、短期型である以上こうしたイベントセミナー的な性格を排除することも困難であることは事実である。こうした点については、第3章において検討した。

#### 2-4. 平成4年度実施上の問題点

前節の主旨に基づいて、木材技術専修センター事業は実施された。

平成4年度に実施された「木造建築担い手育成研修」は、全国22カ所において実施され、延べ4,473名、名簿登録者実数2,638名の受講者があった。

研修の実施状況については、表-1「平成4年度木造建築担い手育成研

修状況」にまとめた。

本事業も2年目を迎え、昨年度の開催13カ所から22カ所へと大幅に増加し、地域における専修センター事業ニーズが高いことが理解される。

しかし、このことは延べ参加人員が増加したことを意味してはいない。昨年度13カ所開催で延べ参加人員は4,918名であった。つまり、予算限度枠があるために開催希望が増加した分、開催時間を縮小することによって、開催希望の増加に対応しなくてはならなかったわけである。

しかし、本研修の特性は、参加人員規模の大小にあるわけではない。むしろ、普段新たなまたは体系的な木造住宅建設に関わる情報・知識を提供し、それによって技能者の技能向上、木造住宅供給の主流である小規模で分散的な木造住宅業者に対して、技術、市場ニーズの動向を伝え自らの市場における体力の強化を考えるための拠り所となる情報・知識を供給しよう、というものである。従って、1年に1度ではあるが、是非参加し、新たな知識を吸収しようという受講者ニーズに対応することが重要となっている。

そのためには、それを必要とする人々に必要とするだけ提供できるのが理想であるが、予算、時間的制限がある。従って、どのような狙いをもった講習会なのか、また、その受講者層はどのような人たちを想定しているのか、といった明快性が必要と思われる。今年度は昨年度のカリキュラムが雛形となった関係上以上のことが曖昧なまま終始しているといえる。

その問題は、基本的には地域における大工・工務店の持つポテンシャルとも関係するわけであるが、受講者ニーズを知るためのアンケートが実施された地域は極めて少数であり、今後受講者ニーズをさらに吸収した形でのカリキュラム編成が求められる。

もちろん、昨年度、本年度のカリキュラムに問題がある、というわけではないが、こうした講習会を契機に大工・工務店が情報武装するといった展開を地域毎に作り上げることによって、この専修センター事業はさらなる展開が行えると考えるからである。

## 2-5. その他実際上での問題点

### 2-5-1. 受講者名簿管理

本事業における各開催地域において、受講者の把握及び名簿管理等において地域毎にばらつきが存在しており、今後は受講者の名簿管理の統一が求められる。

### 2-5-2. アンケート

受講者のニーズや次年度における企画を立案するためには、やはり受講者からの要望を知る必要があり、そのアンケートが実施されていないケースが多い。また、アンケート内容も開催地域によって異なっている。来年

度以降は全会場での統一したフォーマットによるアンケートの実施が求められる。

また、講師に対してもアンケート調査が必要であり、専修センター事業に関する講師の可能講演内容等を把握する必要がある。

以下に本年度実施された木材技術専修センター事業のプログラム概要をみることにする。

木材技術専修センター事業は、以下の2つの研修を実施している。

- ①木造建築担い手育成研修プログラム
- ②設計技術者への木構造技術研修プログラム

木造建築担い手育成研修プログラム

〔開催日短期集中型〕

①鹿児島県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
1月27日 (水)	木材と住宅	鹿児島大学 教授 藤田 晋輔
	工務店経営について	㈱前田組 代表取締役 前田 忠二
	プレカット入門と施工	㈱野元 代表取締役専務 森山 輝男
	木造建築の技術	芝浦工業大学 教 授 藤澤 好一
1月28日 (木)	魅力ある木造住宅	鹿児島女子短期大学 教 授 古川 恵子
	経済情勢について	㈱鹿児島地域経済研究所 調査研究部長代理 脇之菌 健
	住まいのトラブル	国民生活センター 顧問 柳下 宗泰
	建築の規矩術	前田工務店 取締役会長 前田 茂

②宮崎県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
1月22日 (金)	木造住宅のデザイン技術 簡単なパースの描き方	国立都城工業高等専門学校 助教授 樋口 栄作
	快適で長持ちする木造住宅の設計と施工	福岡大学 教授 須貝 高
	木造建築の接合法	三重大学 教授 徳田 迪夫
2月5日 (金)	高齢者に配慮した住まいづくり	東和大学 講師 定松 潤子
	3階建て木造住宅施工の実際	遠山一級建築士設計事務所 所長 遠山 則孝
	建売住宅の需要と動向	東和大学 助教授 永野 義紀
	これからの大工・工務店	芝浦工業大学 教授 藤澤 好一
2月12日 (金)	地域における協同組合活動	(協)茨城県木造住宅センター 理事長 中村 哲男
	公的融資制度について	住宅金融公庫南九州支店 吉富 康
	木造住宅振興について ー地域に根ざした住まいづくりの提案ー	㈱総合企画設計いわい 代表 岩井 秀一郎
	これからの大工・工務店 (意見交換)	

③奈良県2)研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
1月16日 (土)	木造住宅の見積もりの術 (木材の拾い出し、空調・電気設備)	吉本建築設計事務所 所長 吉本 正治
	木造住宅の見積りの術 (給排水、 衛生設備、左官、屋根、内装等)	中川建築設計事務所 代表取締役 泉谷 良宏
	設計士の目から見た施工業者 (設計者の意図する木造住宅のあり方)	吉本建築設計事務所 所長 吉本 正治
	設計士の目から見た施工業者 (見積り・契約から引渡しまでの対応策)	中川建築設計事務所 代表取締役 泉谷 良宏
1月23日 (土)	住宅メーカーの設計から受注、 生産に至るシステムを探る	京都大学 助教授 東樋口 護
	景観と住まいづくり	東洋大学 助教授 秋山 哲一
	若者技能者育成	奈良県立吉野高等学校 学校長 米谷 藤作
1月30日 (土)	現地研修会 (積水ハウスの生涯住宅 (高の原) )	中川建築設計事務所 代表取締役 泉谷 良宏 吉本建築設計事務所 所長 吉本 正治



④奈良県1)研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
10月6日 (火)	社寺建築と伝統文化について	(株)西澤工務店 代表取締役 西澤 政男
10月13日 (火)	木材の強度、耐久力測定方法について	近畿大学 助教授 森本 信明
10月20日 (火)	木質材料と居住性 木材の資源と需要	奈良県銘木協同組合 理事 横谷 昭
10月27日 (火)	木質構造と性能	一級建築士 笹畑 憲文

⑤兵庫県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
3月4日 (木)	兵庫の住宅事情と今後の展望	兵庫県都市住宅部都市政策課 副課長 松尾 貢
	木材のJAS制度と その活用について	神戸農林水産消費技術センター 大阪支所 加工材係長 神谷 光行
	木造建築の接合法	(財)日本住宅・木材技術センター 主任研究員 鴛海 四郎
	木造建築と国産材の役割	(財)日本住宅・木材技術センター 特別研究員 山井良三郎
3月5日 (金)	木造住宅の 新しい供給システム	住友林業㈱ 技師長 福本 雅嗣
	住まい像 主婦の望む「住まい」とは	奈良教育大学 教授 田中 恒子
	工務店経営について 私の場合	㈱田中工務店 社長 田中 秀雄

⑥滋賀県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
3月6日 (土)	木造住宅の進むべき方向 製材業の経営戦略	(財)日本住宅・木材技術センター 特別研究員 山井良三郎
	これからの木造建築需要と 大工技能者の役割	住友林業㈱ 技師長 福本 雅嗣
	新世代の求める木造住宅	(財)日本住宅・木材技術センター 技術主任 飯島 敏夫
3月7日 (日)	国産材及び外材の需給予測 (その1)	甲賀林材㈱ 社長 山田喜太郎
	高齢者に配慮した住まいづくり	滋賀県高齢者総合相談センター 住環境整備専門相談員 福井 伊一
	主婦の望む住まいづくり	奈良教育大学 教授 田中 恒子
	木造建築のデザイン 木にこだわった住宅設計	滋賀県文化振興事業団 調査役 本城 博一
3月13日 (土)	新JAS制度の解説	神戸農林水産消費技術センター 大阪支所 加工材係長 神谷 光行
	3階建て木造住宅施工入門	殖産住宅相互㈱技術研究所 首席研究員 柳沼 廣尚
	国産材及び外材の需給予測 (その2)	日商岩井㈱木材本部 針葉樹部長 岸本 光司

⑦静岡県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
2月12日 (金)	地域工務店の事例に学ぶ 若年技能者確保育成のノウハウ	鈴広ホーム 代表 鈴木 広一
	3階建て木造住宅の設計と施工	殖産住宅相互㈱技術研究所 首席研究員 柳沼 廣尚
	住宅ニーズと工務店戦略	㈱オプコード研究所 所長 野辺 公一

⑧福井県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
1月20日 (水)	木構造と木造3階建て住宅	殖産住宅相互(株)技術研究所 首席研究員 柳沼 廣尚
	福井の住宅とその特徴	福井大学 教授 玉置 伸悟
	割増融資工事について	住宅金融公庫北陸支店 調査役 服部 勤
1月27日 (水)	大断面集成材の利用	(財)日本住宅・木材技術センター 特別研究員 山井 良三郎
	木構造建築物の防火	(財)日本住宅・木材技術センター 首席研究員 最上 滋二
	木造建築物の接合方法	(財)日本住宅・木材技術センター 首席研究員 鴛海 四郎
2月3日 (水)	プレカットによる 住宅生産システム	タカノホーム(株)設計開発課 副課長 桑田 政次
	工務店のための 住宅づくりを考える	京都大学 助教授 東樋口 護
	福井県プレカット協業組合 工場見学会	

⑨石川県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
2月3日 (水)	県産材の特性と 活用法について	石川ウッドセンター 所長 三林 進
	プレカット工法と その活用について	ニューハウス工業(株) 副社長 石倉 敏明
	工事積算・工程管理について	石川県建設業協会 常務理事 村中 覚
	リフォームとインテリア	(株)ハートハウス 代表取締役 高田 晴子
2月10日 (水)	新しいJAS制度と 木材について	石川県木材協同組合連合会 専務理事 前田 義夫
	女性が考える住まいあれこれ	みずほ建築事務所 代表 山田 文代
	都市部における住宅の新築・増改築に 伴うトラブルと建築関係法令	石川県土木部建築住宅課 課長補佐 大谷 武志
	設計図書と施工について	石川県住宅供給公社 建設部長 藤村 明美
2月17日 (水)	石川型住宅のあれこれ	(株)じゅう・総合計画研究所 代表取締役 石原 清行
	集成材工場 (株)中東建設)・ 住宅団地 (山島台ニュータウン) 見学	
2月24日 (水)	省エネルギー基準の改定について	住宅金融公庫北陸支店 建設サービス課長 阿部 義路
	住宅金融公庫建設工事共通仕様書 (施工編)	石川県住宅供給公社 住宅建設課長 瀬嵐 一雄

⑩新潟県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
11月18日 (水)	木造建築のデザインと技術	(株)空間工作所 代表取締役 小須田 廣利
	これからの工務店経営と職人の姿	(株)オプコード研究所 所長 野辺 公一
11月19日 (木)	新潟県における住宅建築 および木材振興について	新潟県建築住宅課 渡辺 新潟県林政課 高橋
	現場研修 乙宝寺方丈殿	宮大工 樋口 武
	県内の木造建築事例 (スライド)	(株)グリーンシグマ 常務取締役 山崎 完一
	伝統の木組みと職人の精神 (意見交換)	樋口 武 山崎 完一

①東京都研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
10月3日 (土)	木の良さと環境問題	東京大学 教授 有馬 孝禮
	建設省の木造住宅振興施策について	建設省住宅局木造住宅振興室 課長補佐 河野 元信
10月17日 (土)	消費者から見た工務店について	日本女子大学 教授 高橋 公子
	高齢化時代の住宅技術について	日本大学 助教授 野村 歆
10月24日 (土)	現地視察（茨城県下森林組合及び木住協との交流 並びに木造校舎など木造建築物をバスにて見学研修）	
10月31日 (土)	規矩術入門 (さしがね使い入門と教え方)	国際技能五輪大会 競技委員主査 増田 実
	これからの工務店経営に 求められる課題	東洋大学 助教授 秋山 哲一



⑫群馬県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
2月20日 (土)	木造住宅見積術	高宮設計事務所 高宮 信治郎
	住宅部品の最新情報	住宅部品メーカー
	売れる木造住宅とは	(株)オプコード研究所 所長 野辺 公一
	プレハブ住宅の人気の秘密	(株)オプコード研究所 所長 野辺 公一
2月21日 (日)	建築基準法入門	行政管理協会群馬支部 松井 実
	設計者の意図を読む	須田建築設計工房 須田 睿一
	安全衛生活動の進め方	群馬県労働基準局安全衛生課 井部 正弘
	プレカット工法の研究 現地見学会 研屋	大日建設(株) 田子 和則
3月13日 (土)	これからの工務店経営	(株)こもだ建総 菰田 勇司
	公庫木造住宅の仕様書	住宅金融公庫北関東支店 江袋 聡司
	公的融資制度	群馬県住宅課 椎名 映夫
	さしがね術	土田工務店(株) 土田 利雄
3月14日 (日)	関連融資制度	住宅金融公庫北関東支店 江袋 聡司
	住宅の水回りリフォーム	林建設(株) 林 龍太郎
	住宅のインテリアリフォーム	佐藤設計建築事務所 佐藤 桂
	住宅の屋根・外壁リフォーム	(株)岡田工務店 岡田 節二
	高齢化対応住宅リフォーム	(株)高山工務店 高山 甫

⑬ 福島県講習会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
11月11日 〔新舞子 ハイツ〕	建築用木材の規格と 検査制度	福島県林業指導課 専門技術員 佐藤 守
	木造住宅の現状と今後の課題	日本大学 教授 佐藤 平
11月12日 〔郡山 会館〕	木造建築の諸相	日本大学 教授 岩崎 博
	住宅ニーズと工務店戦略	東洋大学 助教授 秋山 哲一

〔第2回〕 11月19日（木）/新舞子ハイツ 11月20日（金）/郡山会館

11月19日 〔新舞子 ハイツ〕	住宅用木材の特性	日本大学工学部 助教授 橋本 寛
	木造住宅の振興について	福島県住宅課 主幹 宗像 武久
11月20日 〔郡山 会館〕	担い手確保について 懇談及びアンケート	福島県木造住宅推進協議会
	プレカット工法の現状と その特徴	職業訓練大学校 助教授 松留 慎一郎

⑭ 岩手県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
2月27日 (土)	住宅の新築・増改築に伴う トラブルと法律	石川法律事務所 弁護士 石川 哲
	3階建て住宅の建築・施工	殖産住宅相互㈱技術研究所 首席研究員 柳沼 廣尚
	県産材の需給と流通	岩手県林産振興課木材振興対策 主任主査 黒澤 茂
3月6日 (土)	若い技能者を育てるには	那須建設㈱ 専務取締役 那須 武秀
	南部アカマツ集成材等の 生産と流通	九戸村森林組合(九戸Pine) 常務理事 西山 栄一
	産直住宅と地域おこし	㈱リンデンバウム遠野 専務取締役 千葉 富三
3月13日 (土)	プレカット工法と 乾燥材の必要性	㈱オノダ 代表取締役 小野田 富男
	住宅リフォームの実際	住友林業㈱ 技師長 福本 雅嗣
	大規模木造建築工法	(財)日本住宅・木材技術センター 特別研究員 山井 良三郎

⑮北海道研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
2月24日 (水)	木製サッシの性能と特徴	北海道立林産試験場性能開発科 研究員 平間 昭光
	大面積床暖房システムの紹介 ゴムチップパネルの用途開発	北海道立林産試験場成形科 研究員 澤田 哲則
	林産試験場及び 木と暮らしの情報館見学	
2月25日 (木)	木造建築と住空間	(有)中井仁実建築研究所 所長 中井 仁実

〔開催日短期分散型〕

①大分県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
10月28日 (水)	これからの木造住宅と木構造	東京大学 教授 坂本 功
	国際化時代のなかの建築	(財)日本建築センター 国際部長 野島 紀久
	若い技能者を育てるには	住友林業建築技術専門校 校長 吉田 茂男
1月22日 (金)	木造接合部の強度性能	大分大学 助教授 井上 正文
	工務店の自己改革	東洋大学 助教授 秋山 哲一
	木造建築の進むべき方向 地場業者対応	近畿大学 助教授 森本 信明
1月29日 (金)	県内伝統的建造物を見る	大分県木造建築研究会 会長 村松 幸彦
	住宅メーカー設計 ・受注システムの分析	東京大学 助教授 松村 秀一
	住宅リフォームの実際	住友林業㈱ 技師長 福本 雅嗣
2月5日 (金)	高齢者配慮の家づくり	大分大学 教授 片岡 正喜
	今までの木造住宅と今後	京都大学 助教授 東樋口 護
	3階建て木造住宅施工	殖産住宅相互㈱技術研究所 首席研究員 柳沼 廣尚

②山口県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
12月16日 (水)	工務店設計戦略ポイント	(株)藤原・山下設計事務所 社長 山下 宏
	これからの住宅に 求められるもの	(有)栗林設計 社長 栗林 隆
1月13日 (水)	設計システム入門	住友林業(株) 技師長 福本 雅嗣
	新しい建築材料と 高性能設備機器	
	高齢者に配慮した 住まいづくり	山口県住宅課 技術補佐 三輪 潤之
	女性の立場から見た 住宅リフォームの実際	東和大学 講師 定松 潤子
2月19日 (金)	3階建て木造住宅施工入門	殖産住宅相互(株)技術研究所 首席研究員 柳沼 廣尚
	木造住宅合理化技術について	(財)日本住宅・木材技術センター 技術主任 飯島 敏夫
3月5日 (金)	プレハブ業者の マーケティング戦略	(株)空間工作所 代表取締役 小須田 廣利
	これからの工務店経営 技能者育成について	(株)オプコード研究所 所長 野辺 公一

③岡山県講習会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
9月26日 (土)	木材用発泡性補修剤等の 活用と効果	(株)東亜装研 代表取締役 吉富 大吾
	プレカット工法について	東京大学 助教授 松村 秀一
	大断面集成材について	銘建工業(株) 相談役 中島 道夫
11月25日 (水)	プレカット工場見学 (岡山市郡)	(株)ウッヂ・ワールドのざき・工場
	大型木材加工機械の 問題点と対策	(株)ウッヂ・ワールドのざき 社長 野崎 和良
2月5日 (金)	電動工具と 加工技術	(株)マキタ 岡山営業所 所長 日野 洋

④京都研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
5月21日 (木)	畳のルーツ	たたみ新聞社 代表取締役社長 松浦 範年
	日本人の住まいの知恵 畳について	京都畳高等職業訓練校 主任講師 永島 久夫
	質疑応答	京都畳高等職業訓練校 主任講師 永島 久夫
6月9日 (火)	日本庭園の歴史と背景	京都芸術短期大学 教授 尼崎 博正
	日本庭園の伝統技法と 最近の工法	京都府造園協同組合 理事長 佐野 藤右衛門
	質疑応答	
6月26日 (金)	建築塗装の歴史 伝統技法と最近の工法	京都府塗装工業協同組合 理事長 渡辺 千秋
	塗装と塗料の関連、需要開発	ロックペイント㈱ 建築開発課 勝部 驍
	質疑応答	
7月14日 (火)	京都における木材の流通 過去・現在の態様と今後の展望	㈱スマイック 代表取締役 早田 英雄
	建築用材としての木材の特徴 木材の新しい使い方	(財)日本住宅・木材技術センター 特別研究員 山井 良三郎
	質疑応答	
8月1日 (土)	総括講演 (次頁表)	



期 日	研 修 内 容	講 師
8月1日 (土)	建設技能者対策の動向	建設省住宅局木造住宅振興室 課長補佐 河野 元信
	講演 伝統をふまえた町並みと町家建築	京都大学 教授 西川 幸治
	講演 後継者育成と職人技の継承	京都大学名誉教授 工学院大学 教授 古川 修
	報告 研修の成果をふりかえって	京都府左官工業協同組合 副理事長 佐藤 嘉一郎
	パネルディスカッション	司会 京都建築専門学校 校長 堀江 悟郎 副司会 京都建築専門学校 講師 前 久夫 パネラー 工学院大学 教授 古川 修 京都大学 助教授 東樋口 護 安井杢工務店副社長 安井 清 京都府左官工業協同組合 副理事長 佐藤 嘉一郎
	閉会式	京都府塗装工業協同組合 理事長 渡辺 千秋

⑤長野県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
10月16日 (金)	最近の木造住宅構法の動向	東京大学 助手 大橋 好光
	木造建築構法の基本	信州大学 教授 笹川 明
	木材利用と品質管理	長野県林業総合センター 研究員 橋爪 丈夫
11月20日 (金)	プレカット工法研究	東京大学 助教授 松村 秀一
	工務店の活性化	㈱オプコード研究所 所長 野辺 公一
1月26日 (火)	新しい設備や 総合情報を知るために	信州大学 助教授 浅野 良晴
	施主、設計者、施工者の 関連について	信州大学 講師 宮本 忠長
2月26日 (金)	大規模木構造の実例と展望	昭和女子大学 教授 飯塚 五郎蔵
	これからの木造建築	東京大学 教授 坂本 功

⑥宮城県研修会プログラム

期 日	研 修 内 容	講 師
9月12日 (土)	協同組合方式による ビルダー型住宅供給のメリットと試み	茨城県木造住宅センター 理事長 中村 哲男
	ハウジングウーマン 養成のための基礎実習 1 木の住まいの基礎知識	東洋大学 教授 太田 邦夫
	宮城県における木造住宅開発の 実例とそのコンセプト	東北工業大学 助教授 志田 正男
9月26日 (土)	工務店の協同化の現状と 協同化によるメリット	東洋大学 助教授 秋山 哲一
	ハウジングウーマン 養成のための基礎実習 2 インテリア・エクステリアの基礎知識	福島県立会津短期大学 講師 五十嵐有美子
	宮城県における 木造住宅のニーズ調査実習	東北工業大学 助教授 志田 正男
10月17日 (土)	若者が集まる、業者が伸びる元気な企業 の条件と企業環境作り	㈱リクルート ガテン編集長 道下 勝男
	ハウジングウーマン 養成のための基礎実習 3 キッチン、バス、収納等設備部品の基礎知識	福島県立会津短期大学 講師 五十嵐有美子
	東北・宮城県に求められる 木造住宅の品質と性能	西方設計工房 代表 西方 里見
10月31日 (土)	木造住宅見積術 (その2)	仙台市建設職組合 副幹事長 菅谷 胞典
	ハウジングウーマン 養成のための基礎実習 4 住まい手ニーズの動向と 吸収のための手法検討	㈱空間工作所 代表取締役 小須田 廣利
	宮城県における木造住宅の 商品のコンセプトの検討実習	西方設計工房 代表 西方 里見
11月14日 (土)	三階建て木造住宅の 工法と設計	東京大学 教授 坂本 功
	ハウジングウーマン 養成のための基礎実習 5 顧客折衝と住まい手重視の プラン作りの基礎知識	㈱空間工作所 代表取締役 小須田 廣利
	高断熱・高気密住宅の施工と 実際の住まい手の評価	マコト建築 代表 田村 實
11月28日 (土)	みやぎ型ゼネラルビルダーの課題と これからの工務店の業態開発	㈱オプコード研究所 所長 野辺 公一
	工務店における女性の新しい役割と 女性戦力の育成課題	東北工業大学 助教授 志田 正男 岩井絃子建築設計事務所 岩井 絃子
	宮城型木造住宅開発の方向性と 開発に必要な事柄 (まとめ)	㈱オプコード研究所 所長 野辺 公一

設計技術者への木構造技術研修プログラム

① 飛騨高山講習会プログラム  
 (主催) 日本住宅・木材技術センター  
 (後援・協賛) 日野林野庁

期 日	研 修 内 容	講 師
7月26日 (日)	飛騨の植生と山林経営	日野長 菅林 文男 署長 新井
	世界の木造住宅	東洋大学 太田 邦夫 教授
	木材流通と木製品	千葉大学 安藤 正雄 講師
	伝統構法の技術的特徴と 歴史的変遷	芝浦大学 藤澤 好一 教授
7月27日 (月)	民家の技法と継手・仕口の詳細	京都大学 布野 修司 助教授
	住宅生産システムの 技術と技能	東洋大学 浦江 真人 講師
	設計手法としての 伝統工法の援用	東洋大学 秋山 哲一 助教授
7月28日 (火)	設計構想実習	指導 田澤野藤山江 太 布 安 秋 浦 夫 好 修 正 哲 真 一 司 雄 一 人
	構想に基づく模型制作	
	構想講評	



## 第2章 受講者アンケート結果から見る担い手研修事業

全国22カ所で開催された講習会の内、宮城、福島、東京、静岡、福井、滋賀、兵庫において受講者を対象としたアンケートが実施された。以下、このアンケート結果から共通化しうる部分をデータ化し、専修センター事業に対する受講者の評価をみることにする。

### 1. 受講者の住まい

受講者の住まいを見ると、宮城では、仙台市内64.3%、仙台市外35.7%、滋賀では県内北部34.5%、県内南部30.9%、兵庫では、神戸市53.3%、阪神地域24.4%となっており、開催場所を中心とした参加が過半となっている。このために開催場所を移動させる形を望む地域もある。

### 2. 受講者の男女比

受講者の性別では、宮城が男性19.0%に対し女性が81%と圧倒的に多い。これは宮城では、女性コースを新設した結果と、男性のコースはゼミ形式となっているために参加人員を少なくしているためである。滋賀では男性94.5%、女性5.5%、兵庫では男性100%となっている。今後、宮城的な女性コースや住まい手を対象としたコースなどを考えると、この男女比に変化が起きてくると考えられる。

### 3. 受講者年齢

受講者の年齢を見ると、宮城は、40歳代が最も多く38.1%であるが、10歳代、20歳代も合わせて21.4%の人が受講している。

福島でも40歳代が最も多く27.5%だが、50歳代25.5%、60歳以上21.6%となっている。

滋賀も40歳代が最も多く27.3%を占めるが、10歳代、20歳代を合せると27.2%を占め、若い人の参加が多い。

逆に兵庫県では、60歳以上が32.6%を占めている。現業者のポテンシャルアップということが一つの本事業の狙いであるが、若手の技能者は、どうしても仕事に追われるために参加することが困難なケースも多い。

### 4. 受講者の業種

勤務先の業種を見ると、福島では大工・工務店が88.5%、兵庫でも84.4%を占めているが、滋賀では木材・製材関係が50.9%を占めている。これ

### 住まい

		仙台市内	仙台市外	計
宮城	回答数	27	15	42
	構成比	64.3%	35.7%	

		県内東部	県内西部	県内南部	県内北部	県外	計
滋賀	回答数	7	8	17	19	4	55
	構成比	12.7%	14.5%	30.9%	34.5%	7.3%	

		神戸市	阪神地域	東播磨地域	西播磨地域	丹波地域	計
兵庫	回答数	24	11	8	1	1	45
	構成比	53.3%	24.4%	17.8%	2.2%	2.2%	

### 性別

		男性	女性	計
宮城	回答数	8	34	42
	構成比	19.0%	81.0%	
滋賀	回答数	52	3	55
	構成比	94.5%	5.5%	
兵庫	回答数	45	0	45
	構成比	100.0%		

### 年齢

		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	計
宮城	回答数	1	8	10	16	5	2	42
	構成比	2.4%	19.0%	23.8%	38.1%	11.9%	4.8%	
福島	回答数	—	5	8	14	13	11	51
	構成比		9.8%	15.7%	27.5%	25.5%	21.6%	
滋賀	回答数	2	13	13	15	8	4	55
	構成比	3.6%	23.6%	23.6%	27.3%	14.5%	7.3%	
兵庫	回答数	—	—	8	10	11	14	43
	構成比			18.6%	23.3%	25.6%	32.6%	

### 勤務先業種

		大工・工務店	木材・製材	設計事務所	建設業	その他	計
福島	回答数	46	3	1	—	2	52
	構成比	88.5%	5.8%	1.9%		3.8%	
滋賀	回答数	3	28	4	11	9	55
	構成比	5.5%	50.9%	7.3%	20.0%	16.4%	
兵庫	回答数	38	—	4	—	3	45
	構成比	84.4%		8.9%		6.7%	



は、滋賀の講座に「木造住宅の進むべき方向・製材業の経営戦略」、「これからの外材供給予測」等もあるためと思われる。

従事している仕事を見ると、サンプル数が不明で構成比がわからない所もあるが、福島では、施工・技能(大工を含む)が35サンプルと最も多く、次いで経営が32サンプルとなっている。滋賀では、営業・販売が24サンプル、木材加工が11サンプルとなっている。兵庫では、施工・技能(大工を含む)が24サンプル、次いで経営が15サンプルの順となっている。

## 5. 主な建築物

主に取り扱っている建築構造を見ると、複数回答ではあるが、木造軸組が福島では60サンプル中51サンプル、滋賀では55サンプル中43サンプル、兵庫では56サンプル中42サンプルと圧倒的に木造在来工法が中心の業態からの参加者であることがわかる。

## 6. 供給規模

福島で、その軸組木造住宅の供給規模を見てみると、10棟未満が78%を占めている。また、兵庫でも木造住宅全体の供給数が5棟以下の供給が78%であった。従って、大工・小規模工務店からの参加が殆どであることがわかる。

## 7. 研修会への全体評価

研修会全体の評価を聞いてみると、宮城「良かった」が68.3%を占めているが、「余り良くなかった」「良くなかった」と21.9%の人が回答している。

福島では、「良かった」と61.5%の人が答えており、「余り良くなかった」は11.5%である。東京では、63.8%が「大変良かった」と答えている。

ちなみに東京では、講義の他に茨城県で現地研修も行っており、こうした見学コースの満足度は概ね高い。

静岡では、研修に対する全体の評価はないが、個々の講義に対する評価を見ると、どの講義も60%以上の人「良かった」と答えている。

福井では、「大変良かった」が47.5%、「一部よかった、一部勉強になった」が52.5%を占めており、「良くなかった」と答えた人はいない。

滋賀では、「良かった」と83.7%の人が答え、「良くなかった」との回答はなかった。木材・製材関係が多く占めているが、彼らのこれからの木造住宅への関心の高さを伺わせている。

兵庫では、84.4%の人が「良かった」と答え、13.4%の人が「余り良く

従事している仕事

		経営	施工・技能 (大工含む)	工事管理	営業・販売	設計	その他	サンプル数
福島	回答数 構成比	32	35	19	10	16 (積算)5	5 不明 (内調査・企画-3)	
滋賀	回答数 構成比	8	2	6	24	9 (木材加工)11	不明	
兵庫	回答数 構成比	15 33.3%	24 53.3%	14 31.1%	6 13.3%	6 (積算)4 13.3% 8.9%	4 (内調査・企画-1)	45

主に取り扱っている建築構造

		軸組木造	2×4	プレハブ	鉄筋コンク リート	鉄骨	その他	サンプル数
福島	回答数 構成比	51	3	2	1	2	1	不明
滋賀	回答数 構成比	43	0	2	3	1	4	不明
兵庫	回答数 構成比	42 93.3%			4 8.9%	9 20.0%	1 2.2%	45

昨年取り扱った軸組木造住宅

		10棟未満	10棟以上	20棟以上	30棟以上	40棟以上	計
福島	回答数 構成比	39 78.0%	6 12.0%	0 0.0%	2 4.0%	3 6.0%	50

昨年取り扱った木造住宅

		なし	1～5棟	6～10棟	11～15棟	15～20棟	20棟以上	計
兵庫	回答数 構成比	4 10%	32 78%	1 2%	1 2%	3 7%	0 0%	41

全体評価

		大変良かつ た	良かった	余り良くな かった	良くなかつ た	計
宮城	回答数 構成比	4 9.8%	28 68.3%	8 19.5%	1 2.4%	41
福島	回答数 構成比	14 26.9%	32 61.5%	6 11.5%	0 0.0%	52
東京	回答数 構成比	30 63.8%	17 36.2%	0 0.0%	—	47
静岡	全体の評価はないが、どの講義も60%以上「良かった」との回答 (一部よかった)					
福井	回答数 構成比	19 47.5%	21 52.5%	0 0.0%	—	40
滋賀	回答数 構成比	7 16.3%	36 83.7%	0 0.0%	—	43
兵庫	回答数 構成比	1 2.2%	38 84.4%	3 6.7%	3 6.7%	45

なかった」「良くなかった」と答えている。

## 8. 「良くない」理由

「良くなかった」と答えた理由としては、宮城が「期待外れ」が44.4%と最も多く、次いで「難しい」22.2%であった。

福島では、「既に知っていた」が45.5%と最も多く、次いで「期待外れ」と「抽象的」が18.2%である。

滋賀では、「期待した講座が良くなかった」理由として、「期待外れ」が40.0%と最も多く、次いで「難しい」が35.0%である。

兵庫も「期待した講座が良くなかった」理由として、「期待外れ」が44.4%を占め、次いで「抽象的」が33.3%を占めている。

## 9. 希望開催日

希望開催日を見ると、宮城は「土曜が良い」が47.6%と最も多く、次いで「平日が良い」31.0%となっている。

福島では、サンプル数が不明だが、「平日がよい」が21サンプルと最も多く、次いで「大安・吉日は避けて欲しい」が18サンプルであった。

静岡では、「平日が良い」が51.6%を占め、「日曜が良い」が29.0%となっている。

滋賀では、「平日が良い」が39.3%と最も多く、次いで「土曜が良い」が33.9%となっている。

## 10. 開催希望時期

希望開催時期を見ると、みやぎBSでは「9・10月」が38.9%と最も多く、次いで「5・6月」25.0%となっている。

滋賀では、「3・4月」が28.3%と最も多く、次いで「1・2月」が23.9%となっている。

兵庫では、「1・2月」が54.5%と最も多く、次いで「3・4月」が22.7%となっている。

## 11. 希望するテーマ

希望するテーマを見ると、福島が、サンプル数が不明だが「経営」が32サンプルと最も多く、次いで「営業」26サンプルとなっている。

兵庫では、「施工・技術」が48.9%と最も多く、次いで「経営」46.7%となっている。

### 良くなかった理由

		既知っていた	期待外れ	難しい	抽象的	その他	計
宮城	回答数	1	4	2	—	2	9
	構成比	11.1%	44.4%	22.2%		22.2%	
福島	回答数	5	2	1	2	1	11
	構成比	45.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	
期待する講座がよくなかった理由							
滋賀	回答数	1	8	7	4		20
	構成比	5.0%	40.0%	35.0%	20.0%		
期待する講座がよくなかった理由							
兵庫	回答数	1	4	0	3	1	9
	構成比	11.1%	44.4%	0.0%	33.3%	11.1%	

### 希望開講日

		土曜が良い	日曜が良い	平日が良い	期間を集中的に	月末避ける	大安・吉日は避ける	その他	計
宮城	回答数	20	0	13	5	4	—	0	42
	構成比	47.6%	0.0%	31.0%	11.9%	9.5%			
福島	回答数	—	13	21	16	—		18	4 サンプル数不明
	構成比		(土・日)						
静岡	回答数								出席者152
	構成比	19.4%	29.0%	51.6%	(何の構成比か不明)				
滋賀	回答数	19	15	22				0	56
	構成比	33.9%	26.8%	39.3%					

### 希望開催時期

		1・2月	3・4月	5・6月	7・8月	9・10月	11・12月	計
宮城	回答数	3	3	9	5	14	2	36
	構成比	8.3%	8.3%	25.0%	13.9%	38.9%	5.6%	
滋賀	回答数	11	13	8	3	7	4	46
	構成比	23.9%	28.3%	17.4%	6.5%	15.2%	8.7%	
兵庫	回答数	24	10	3	4	3	1	44
	構成比	54.5%	22.7%	6.8%	9.1%	6.8%	2.3%	

### 1 講義当たりの時間

		1時間	90分	2時間	3時間以上	その他	計
宮城	回答数	0	2	29	10	1	42
	構成比	0.0%	4.8%	69.0%	23.8%	2.4%	

### 希望時間帯

		1日 (AM9-PM4)	午後 (PM1-5)	宿泊付き (1泊2日)	計
滋賀	回答数	27	23	1	51
	構成比	52.9%	45.1%	2.0%	

## 12.次回への参加意向

来年度は、福島では、「参加する」と51.9%の人が回答し、「内容によって参加する」と48.1%の人が答えている。

東京では、来年も「実施して欲しい」と79.2%の人が回答しており、「どちらでもよい」と答えた人は20.8%で、「なくてよい」と答えた人は1人もいない。

福井でも、来年度も「実施してほしい」と答えた人が75.7%おり、「どちらでもよい」と答えた人は24.3%、「なくてよい」と答えた人はいなかった。

## 研修の進め方

		今年と同じ で良い	討議方式	実技講習も 実施	講師に任せ る	その他	計
宮城	回答数	6	11	13	10	2	42
	構成比	14.3%	26.2%	31.0%	23.8%	4.8%	

## 開催場所

		今年と同じ で良い	J R・地下 鉄沿線	地域毎に実 施	その他	計
宮城	回答数	24	12	5	1	42
	構成比	57.1%	28.6%	11.9%	2.4%	

## 希望するテーマ

	福島		兵庫	
	回答数	構成比	回答数	構成比
経営	32	46.7%	21	46.7%
営業	26	33.3%	15	33.3%
設計	11	8.9%	4	8.9%
積算	12	20.0%	9	20.0%
建材・設備	7	20.0%	9	20.0%
施工・技術	22	48.9%	22	48.9%
施工・技術の実習	5	—	—	—
関係法律	8	8.9%	4	8.9%
資金・融資	8	8.9%	4	8.9%
その他	0	2.2%	1	2.2%
サンプル数	不明		45	

### 静岡

- ・労働者としての婦人について
- ・需要掘り起こしと差別化商品の提供方法
- ・3階建住宅

### 福井

- ・木造3階建、在来工法
- ・製材所、工務店の生き残り戦略
- ・文化財等を対象とした宮大工の講義
- ・建物の現地見学
- ・間取・内装・デザイン・機能等

## 来年度は

		参加する	内容による	参加しない	計
福島	回答数	27	25	0	52
	構成比	51.9%	48.1%	0.0%	
		実施して欲 しい	どちらでも よい	なくてよい	計
東京	回答数	38	10	0	48
	構成比	79.2%	20.8%	0.0%	
福井	回答数	28	9	0	37
	構成比	75.7%	24.3%	0.0%	

注) — がある個所はその項目がないことを示す

### 第3章 専修センター事業担い手育成研修会の今後の課題

#### 1. 受講対象者の明確化の必要性

これまでみてきたように開催された多くの研修会は、総合型もしくはそれに類似するものであった。しかし、その参加者をみると、工務店経営者、製材業者、一人親方、若年大工、地域ビルダー設計者等実に様々であった。従って、総ての参加者のニーズにミートした研修会を開催することが困難であったといえる。また、講師においても、その対象が誰なのかによっても、講演内容の力点に変化するはずである。

アンケート結果では、「良かった」とか「良くなかった」といった評価がなされているわけであるが、何がどう「良かった」のか、また「良くなかった」とは何が良くなかったのか、といった点が曖昧であり、また研修会のプログラム目的そのものが不明快であるために、アンケートそのものがあまり役にたっていない部分がある。次年度以降は統一したフォーマットでのアンケートによる解析が必要と思われる。

つまり、どのような目的をもって、誰を対象として担い手育成研修会を開催するのか、ということである。

従って、ここでは研修内容を絞り込んだ形で、その目的を明確にするか、研修対象者を明確に絞り込んだ上で、カリキュラムを設定するのか、という2つの選択が求められる。

前者では、例えば「プレカット導入のメリットとデメリット」といった形で地域小規模工務店におけるプレカット活用はどのような影響を及ぼすのか、といったテーマ重点主義からのカリキュラムを編成するやり方である。これによって、参加主力は工務店経営主となるが、製材業者や大工なども関連した講習ということで参加しても、矛盾は生じない。

後者は、宮城県で実施しているようなコース設定である。即ち、工務店の2世だけを対象としたり、工務店の女性を対象としたコース、といった形である。対象とする人々によってニーズもまた、与えなければならない必須の情報・知識も異なるわけであり、それをより明確化していく、というのがこのコース制である。こうしたコース制を導入することによって、毎年同じプログラムといった形でのノルマ消化型の研修会から、担い手育成タイプに対応した研修会を持続的に開催していくことが可能となろう。

この場合問題となるのは、参加人員規模評価である。この参加人員規模での研修会評価をする限り、コース制にしてもテーマ主義制にしても難しい問題が生じる。その意味でも、地域における真の担い手を育成するための勉強会である、といった視点をより明確に本事業は押し出す必要があるように思われる。

## 2. 講義内容の非整合性

1に関連するわけであるが、例えばカリキュラムの中である講師はプレカットを利用していくことがこれからは自明のことである、といった内容の講演をし、その後の講師は、プレカットを利用するのは小規模工務店の体質には向かない、といった講演をしたとすると、参加者に混乱が生じる可能性が高い。こうした矛盾の発生は、企画者が一貫したプログラムに対するコンセプトを明確にしていなかったために生じる事柄である。つまり、極端に言えば、形だけをつくり話の内容は総て講演者に委ねる、といった形になっているということである。しかも、その講演者に対して、その狙いと全体プログラムコンセプトを明確にしえないのが現状であり、それによってこうした矛盾が生じている。

そのためにも、全体プログラムコンセプトの明確化とその内容を講師間と連携していく、といった形が必要である。

つまり、この担い手育成研修を契機として地域におけるポテンシャルを有した担い手を育成するためのムーブメントをつくり出すような仕掛けと連動するような形づくりが、本質的には各地域に求められているといえよう。

## 3. 担い手育成研修会プログラムの今後

以上みてきたような問題点が存在しているわけであるが、こうした問題点を解消し、より意義のある研修会にしていくために以下のような事柄が求められる。

まず研修会プログラムについては、以下のような設定が求められる。

### ①継続プログラム型

平成5年度より3カ年を継続的研修と捉え、3カ年を単位としたプログラムを設定するタイプ。参加者にも事前にそのことが告知、認識されて参加されることが望ましい。また、受講者は現在の総合型での受講者を対象としている。

しかし、この場合、その対象となる参加者およびカリキュラムも参加対象者を明確に意識して、また体系的なカリキュラムが作成される必要がある。

### ②コース多メニュー型

予め研修対象者別にコースを設定し、そのコースを毎年更新していくような形である。つまり、若年技能者コース、工務店経営主コース、工務店女性コースといった形でのコースを設定し、年1コースとして毎年



受講対象者を変更させていくタイプである。

この場合、研修内容の成果イメージを明快にし、参加者が何を学べるのかがきちんと把握できる形の研習会が望ましい。

### ③複合型

①と②を複合したタイプであり受講対象者を明確にし、各コース毎に3カ年カリキュラムを作成し、参加者に告知を行うタイプ。

### ④スクール型

お盆の時期を中心にサマースクール形式の研修会である。基本的には③と大きな違いはないが、ここでは木造担い手が望む、または技能、知識、情報等でのポテンシャルアップにつながる講座が「定常的」に開催され、かつ、それらの運営が地域の工務店等の協同的運営によって行われるようなスクールを想定している。従って、地域でのハウジングイベント的な要素も盛り込み、中学生や高校生、主婦などを対象としたコースも設定し、地域における木造住宅の担い手イメージをも刷新していくようなイベント型。地域における協同的な業態イメージづくりも狙う。

また、こうしたスクール活動をより強化する形でのウインタースクールなどを増設することも考慮する必要がある、そうしたシステムづくりが求められる。

## 4. 運営計画

上記のような研修会を実現していくためには、地域主催者と主催者サイドの綿密な連携性とサポートが求められる。そのために以下のような形のプログラムづくりから実施までの作業が必要となる。

### ①全体プログラム企画書の提出

プログラム

日程

受講対象者

研修会の狙い

### ②研修企画運営委員会の検討

提出された企画書をもとにいくつかのタイプに整合。

カリキュラムの統一可能な部分については、教材を統一化。

### ③全国企画者会議

研修企画運営委員会において検討されたカリキュラムをもとに、各地

域における企画者を交えての、統一会議。研修会の意味や地域的なニーズ及び望ましい方向性などを検討。

#### ④統一ガイダンスの作成

これまで地域毎に明示されていたカリキュラムを開催全地域のプログラムを網羅した専修センター担い手育成研修ガイダンスを作成する。ガイダンスにはその狙いや意味等がプログラム毎に明記され、地域における参加者が、自分たちの受講している研修の意味と位置づけを知るとともに、他地域でのプログラムなども併せて知ることによって、研修会に対するニーズがより顕在化してくると考えられる。また、こうした統一ガイダンスを作成することによって、全国的なスケールでの1つの学校もしくは塾に参加している意識を形成することができ、それによって参加者の研修会に対するインセンティブをより形成することが可能となる。

以上のような手続きが必要であり、こうした全国的な企画者とのネットワークづくりと検討会を通じて、課題である地域における企画者養成といった側面への対応が可能となる。

## 参考資料

研修運営委員会では、若年木造建築技能者育成を主眼とした専修センター事業展開の検討のために

①工業高校における建築技能教育－熊本県立球磨工業高校建築科伝統建築コース

②杜氏育成－新潟県立吉川高校醸造科  
についての現地調査を実施した。

その調査概要を参考資料として添付した。

また、木造建築担い手研修において各会場において実施されたアンケートについてはその総計を第2章においてみたが、以下に会場別のアンケート結果を参考資料として添付した。

従って、

1. 工業高校における建築技能教育－熊本県立球磨工業高校建築科
2. 杜氏育成－新潟県立吉川高校醸造科
3. 木造建築担い手研修受講者アンケート結果
  - ①宮城
  - ②福島
  - ③東京
  - ④静岡
  - ⑤福井
  - ⑥滋賀
  - ⑦兵庫

を以下に参考資料とし添付した。

# 参考資料 1. 工業高校における建築技能教育

—熊本県立球磨工業高校建築科伝統建築コースの例—

東洋大学 教授 太田 邦夫  
職業能力開発大学校教授 谷 卓郎

## 1. 球磨工業高校の概要

### (1) 設置学科及び在籍生徒数

球磨工業高校の設置学科は4科、生徒の総定員数は720人、1学年定員は240名である(表1)。内、建築科のみ「建築コース」と「伝統建築コース」の2コースに分かれ、それぞれ1学年の定員は20人となっている。

### (2) 応募状況

入学試験の建築科の応募状況は、平成4年入試で定員の2・2倍を示すなど、入学希望者は増加している。応募者は県内にとどまらず、県外からも問い合わせが来ている。

寄宿舍がないため、遠方の出身者は市内に下宿をして生活している。

### (3) 職員組織

職員の総数は73人である(表2)。授業を担当するスタッフは、教諭が48人、実習教師が11人で、他に講師などがいる。建築科の職員数は、教諭が6人、実習講師が3人で、科が2コースに分かれていることから他科と比べて多い。

## 2. 伝統建築コース設置の経緯

人吉・球磨地域は、昔から山を基盤とする産業に依存した生活圏を形成してきた。そのため、林業が盛んであった他、木工や大工など“木”に関連した職業に従事する人が多かった。

また、この地方には、重要文化財に指定されている青井阿蘇神社を始め願成寺・石水寺・大信寺などの社寺、相良藩時代の武家蔵、及び民家などの伝統建造物が残っており、県内文化財(建築関係)の6～7割が集中しているという。

このような地域内の産業的・文化的条件に加え、今日の全国的な大工棟梁の不足傾向などが背景となって、伝統建築家を育成することを目的とした本コースが設置された。

### 3. 教育目標

建築科及びその2コースの教育目標は、入手資料によると表3の通りである。説明によると、伝統建築コースの教育は、伝統建築家としての専門的技術・技能の形成を主目的とするのではなく、本コースに置ける3年間の教育の中で伝統建築に関する知識・技能の習得を行い、それを通じてこの領域に対する興味を形成することが主眼である。加えて、伝統建築の各分野で従事し活躍されている方々を特別講師で招き、第1人者の最高峰の話に触れることによって伝統建築の仕事に対する興味を育み、進路選択のきっかけを掴むなど、啓発教育的な側面をも持ち合わせている。

中学校までの教育で、伝統建築や技術・技能に関する基礎教育を受けていないので、高校での少ない授業時間の中で、いきなり専門的な技術・技能教育を受けさせることには無理がある。工業高校に入学して来る生徒達が、勉強に疲れたり学校が嫌いになった段階で実業高校に入って来ている状況を見ると、実業系高校での技能教育が教育段階として適当であるかどうか疑問を感じる。中学校教育に本格的に技能教育を取り入れ、物造りの楽しさを経験し、学ぶことの重要性を理解させる必要があるとの意見が聞かれた。

また、行政レベルで“技術”と“技能”を分けて考えていることに、教育の現場にいる者の立場からは疑問を感じる。建物を造る技術に加えて文化的側面からも学び、広い視野を持った、建物のあるべき姿を考える、材料・納まりを熟知してどう設計すべきか！どう造るべきかを考える技術者・職人を目指し、その素養を身に付けさせたいと考えている。

### 4. カリキュラムとその特徴

球磨工業高校に置ける教科の単位構成は、普通教科：53単位、職業教科：43単位、特別教育活動：6単位で、総計：102単位である。また、平成5年度入学生のための3年間の開講科目、単位数及び履修年次は表4に表す通りである。

この内、伝統建築コースの主要専門科目「日本建築」「伝統技法」「実習」「課題研究」の合計単位数は21単位である。表5（伝統建築科学習要領）によれば、「実習」の授業内容にRC学習が含まれるが、一方上記4科目以外の科目「工業基礎」に継手仕口や実測調査の基本などが、「建築製図」に日本建築設計製図などが盛り込まれているので、カリキュラム上はおおよそ1/4が伝統建築関係の授業内容と考えられる。

「課題研究」は、同種の学科としては全国で初めて開講したもので、生徒自身が自由研究課題を持って主体的に学習する科目である。

伝統建築コースでは、日本建築史・町並み・構造・設計・技法などの内容を、講義・演習・実習などの授業形式で展開するほか、それらを総合する課題研究がグループ研究として行われるなど多様である。実習では、伝統的建築物の実測調査・図面作成により地域の文化財から学ぶほか、CAD実習による設計製図及び積算など近代的要素も導入している。また、木造実習では、棒隅屋根（2級技能士検定課題）や四方転び踏み台など伝統的技法に関する課題で現寸図作成及び制作を行っている。

実習課題では、模型でなく極力実際に近い物とし、物造りの面白さを自然に発見させるよう工夫している。建築現場見学は年に3～4箇所を対象に実施し、施工技術について学ぶと共に、地域の人々との触れ合いが生まれるように工夫している。

文化財の見学及び実測は3箇所を対象に実施し、神社等地域文化財の発見・再認識・重要さを教育するようにしている。

伝統建築コースを開設して4年目に入り、教育効果は年々上昇していると実感している。

カリキュラム上の悩みは、伝統建築コース関係の授業時間数が少ないことである。その上、この度の学習要領の改訂により、平成6年度からは情報技術科など共通科目を充実することになり、そのため各科共、職業教科の単位数を43単位から36～38単位に縮小せざるを得なくなっている。その蹴寄せは、結局はコースの科目に影響するであろうと心配されている。また、学校教育のため1時間が50分単位となっていて、校外に出る時に時間的制約を受けることも問題点の一つとしている。

教師としての不安は、伝統建築コースの教育内容に標準がないことで、試行錯誤しながら確立するより方法はないという。例えば、外部から依頼され、木造倉庫（3間×3.5間）の建築も行ってみた。（ちなみに、職業訓練校では、生産現場での見習工の技能習得過程を前提にし、近代的な建築技術教育を付加したものと言える。）

## 5. 教育体制

### （1）教員スタッフ

1（2）で述べたように、教員スタッフは建築科全体で教諭が6人、実習教師が3名、計9名で2コース・6クラスの授業を運営している。その内実習教師の中には熊本県立職業訓練校からの移転者がいて、木造実習を中心とした大工技能の指導を担当している。また、伝統建築コースでは、実習・伝統技法・日本建築の教科に置いて特殊な技能等が求め

られるため、特別講師の招聘も「県立高等学校特別講師招聘事業（表6）」に基づいて計画的に行っている。授業の進度に合わせて、県内外の研究・建築技術・流通・行政などの機関に協力を求め、講師を依頼して（表7）教育体制の充実を図っている。

常勤の教師の1週間の持ち時間は16～18時間である。課題研究で4人による指導体制（各グループの生徒数5～6人）を取ったり、その他の実習でも複数体制を取っているので、担当時間数はどうしても多くなる。

## （2）施設・設備

建築科の校舎は象設計集団の設計によるもので、斬新なデザインの明るいイメージの木造校舎である。熊本アートポリスの対象となった実習棟を始め、全面的に改築して施設・設備の充実が図られている。

まず、建築コースとの共用施設を上げると、CAD実習室は専用CADを設備し、科の実習では1台に7人、コースの実習では1台に3人配置し、一般住宅程度の設計を行う。多目的大教室は視聴覚設備が整備されている他、空調実験室及び照明実験室をも兼ねている。材料実験室は、試験体制作スペース、溶接実習場、コンクリート試験体養生室、そして材料試験機及び構造物試験機を設備している。製図室は学年毎に設けられ、2年生用製図室は建物模型室を付設している。製図では、1年生・2年生はT定規を、3年生はドラフターを使用している。1・2年生が現在使っている製図台及び製図板は昭和38年購入のもので、物品を大切に扱うよう指導している。他校で、いたずらなどによる機器の損傷が激しいところもあると聞かすが、本校では比較的少なく、ドラフターについても10年以上前のものが健全な状態である。しかし、以前に比べると物を大切にしなくなった。精神的な面を考え合わせると、製図の授業では、T定規によって教育する方が良いという。造形室は、平面が五角形をしている。机の並びが規則的にならないこともあって、教師・生徒の双方とも、些細なことが気にならなくなり、おおらかになってコミュニケーションが良好になった。実験棟及び実習棟に囲まれた中庭は、通常は憩いの場として使うが、測量実習にも活用している。

伝統建築コースの木造実習場は、作業場・木工機械室・器工具室・材料置き場などの他、下屋風の多目的スペースを併設している。木工機械室の上部空間は中2階の部屋とし、規矩室として使っている。また、校舎間にオープンスペースを2箇所設け、刃物の研ぎ、加工材の仮置き、構造物の仮組み、グループ研究などの作業スペースとして活用し、雨天でも授業を予定通り行うことが出来るので重宝している。

大工道具については、入学当初に基本的な道具を一式貸与し、3年間通して使わせる。

## 6. 生徒の進路

伝統建築コースの生徒の内、親が建築関係に従事している者は、おおよそ1/4である。

卒業生の進路は、学校側では図1に示すように一般施工会社を中心に多方面を考えているが、これまでの実績では6割が工務店・伝統建築関係、4割が一般建築関係である。地域別には県内4割、県外6割で、県内の多くは地元、県外は京都の他に東京・大阪方面に就職している。

生徒の就職に関する問題は、就職先での身分・雇用条件・生活条件などについてである。建築コースの卒業生については、建設会社等での職業生涯や処遇が確立されていて送り出す側としても不安がないが、伝統建築コースに来る求人会社については、現状が分かると就職させたくなくなる事がある。つまり、卒業生の受け皿がしっかりしていない。

生徒は、身体を使って憶えることには理解が早い。それを中心にした教育にすると人間的に固めてしまい、過ぎると創造性が欠如することが心配である。これまでの建築教育をかなぐり捨てて、技能教育に踏み切ることが出来ない。現状でも、学校側が仕掛けると9割位が大工になるであろう（現に、建築コースから伝統建築コースへコース変更をする生徒も出て来ている）。しかし、それは怖いことで、自ずから、伝統建築コースでの教育は中途半端にならざるを得ないのが現状という。

就職する者の多くは、工業高校が最終学歴になる。そのため、彼らが職業生涯を立派に歩めるよう、工業高校は2級建築士などの資格が取得できる程度の教育を行わなければならないと考えている。伝統建築コースに関する各種資格の受験資格は、表8の通りである。

## 7. その他

① 実習では安全の確保が最も大切であるが、「学校保険会」の適用には、正規の授業であること、指導者・時間・場所などの条件が満たされていること、安全に関する指導が的確に行われていることなど条件が厳しく、自習や学外での学習で不幸にして事故が起こった時に保障がない。伝統建築コースでは、器工具・機械の使用及び校外での学習（実習・実測）が不可欠であり、そのためには保障の問題が解決されなければならない。指導者が犠牲になる気持ちがなければ何もできない。指導する人が意欲をなくす要因ともなってい



る。この問題は、民間協力を得る場合の障害にもなっている。

② 先生方には国内留学制度がある。毎年1名程度が京都へ派遣され、安井 清先生や中村昌生先生のもとで、技能向上等を図っている。

③ 伝統建築コースと言えども一般の全日制高校であるため、県からの特別な予算配分を期待することは出来ない。とって、実習費などの特別な負担を生徒に強いることは出来ず、専門教育には自ずから限界がある。

表1 設置学科及び在籍生徒数

学 科 名	定員	1 年	2 年	3 年	計		
					学級数	現在数	
機 械	240	82	79	56	6	217	
電 気	240	80	81	77(1)	6	238(1)	
建 築	伝統建築コース	60	20	22(1)	20(1)	3	62(2)
	建築コース	60	21(5)	22(7)	21(1)		64(13)
土 木	120	40	37	29	3	106	
計	720	243(5)	241(8)	203(3)	18	687(16)	

( ) は女子再掲

表2 職員組織

校 長	教 頭	事 務 長	教 諭						講 師	非 常 勤 講 師	事 務 職 員	図 書 事 務 職 員	実 習 教 師	技 師	団 体 職 員	合 計
			機 械 科	電 気 科	建 築 科	土 木 科	普 通 科	養 護 科								
1	1	1	9	9	6	4	19	1	2	2	3	1	11	2	1	73

表3 建築科の教育目標

建築コースは建築技術者としての知識・技術を修得させることを目標とし、より快適な住環境を創造することで社会に貢献できる人材を育成する。

伝統建築コースは建築技術者としての素養を修得するとともに、伝統建築に関してより専門的な知識技術を体得することを目標とする。

イ. 建築とはいかなるものかを理解させ、建築物に対する観察力を向上し、創造能力を養う。

ロ. 建築物を構成する材料の特性並びに構造方法を習得させ、応用能力を養う。

ハ. 構造物の力学的解明、計算に習熟させる。

ニ. 建築物の計画、設計、製図の技術を習得し、応用能力を養う。

ホ. 現場施工技術を習得し、合理的現場指導能力及び経営能力を養う。

ヘ. 施工実習並びに実験および製図実習を通じて、勤労意欲と責任感を向上し、技能を錬磨する。

表4 平成5年度教育課程表

学 科		建 築 科																			
		建築コース									伝統建築コース										
教科	入学年度	5年度入学			4年度入学			3年度入学			5年度入学			4年度入学			3年度入学				
	学 年	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III	計
	科目・標準単位																				
国語	国 語 I	4	3	3	6	3	3		6	3	3		6	3	3		6	3	3		6
	国 語 II	4		3	3		3	3			3	3			3	3			3	3	
社会	現代社会	4	4		4	4			4	4			4	4			4	4			4
	日本史	4		3	3		3	3			3	3			3	3			3	3	
	地 理	4	3		3	3			3	3			3	3			3	3			3
数学	数 学 I	4	4		4	4			4	4			4	4			4	4			4
	数 学 II	3	3	3	6	3	3		6	3	3		6	3	3		6	3	3		6
理科	理 科 I	4	3	2	5	3	2		5	3	2		5	3	2		5	3	2		5
保健 体育	体 育 7~9	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7
	保 健	2	1	1	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
芸術	美 術 I	2	2		2	2			2	2			2	2			2	2			2
外国語	英 語 I	4	2	3	5	2	3		5	2	3		5	2	3		5	2	3		5
	英 語 II	5		3	3		3	3			3	3			3	3			3	3	
普通教科計		21	17	15	53	21	17	15	53	21	17	15	53	21	17	15	53	21	17	15	53
工業	工業基礎 3~4	3			3	3			3	3			3	3			3	3			3
	実 習 6~16		3	3	6		3	3	6		3	3	6		3	3	6		3	3	6
	製 図 2~12	3	3	3	9	3	3	3	9	2	3	2	7	3	3	3	9	3	3	3	9
	工業数理 2~8	1	2		3	1	2		3		2		2	1	2		3	1	2		3
	建築構造 4~6	2	2		4	2	2		4	2	3		5								
	建築施工 3~4			3	3			3	3		4	4									
	建築設計 4~6	2	2	3	7	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	3	7	2	2	2	6
	建築計画 4~6		3	2	5		3	2	5	2	2	2	6								
	日本建築 6~12													2	3	3	8	2	2	3	7
	伝統技法 4~8													2	2	4	8	3	2	5	10
課題研究 2~4			3	3		4	4			4	4			3	3			4	4		
職業教科計		11	15	17	43	11	15	17	43	11	15	17	43	11	15	17	43	11	15	17	43
特別 活動	ホームルーム	3	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
	クラブ活動	3	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
合 計		34	34	34	102	34	34	34	102	34	34	34	102	34	34	34	102	34	34	34	102

表5 伝統建築科の学習要領

学年	学期		第一学期	第二学期	第三学期
	科目				
1年	工業基礎		木造の継手仕口、コンピューター道具棚の製作、実測調査の基本		
	製 図		製図の基本 建築造形の基本	建築物の設計製図	平屋建専用住宅 設計図
	建築設計		建築設計のあらまし 力のつりあい	構造物	静定構造物の応用
	日本建築		建築材料	木構造	古建築の見方
	伝統技法		指短の基礎知識及び 使い方 墨の打ち方	二方転び踏台の作図 ・製作	四方転び踏台の作図
	工業数理		・面積や体積を考 えてみよう。 ・シーソーやハガキ グライNDERを考 えてみよう。	・自転車をめぐって ・鉄道をめぐって	・基本単位と組立単 位 ・流れと圧力
2年	工業数理		時間とともにかわる 事象	構造物と部材の設計	予測と計画 情報と制御
	実 習		木造実習……継手、仕口（腰掛蟻継ぎ、軒桁と小屋り→かぶと蟻 り、追掛大栓継ぎ、渡りあご） 洋風小屋組（現寸引き、墨付、型板取り、加工、組 立） RC学習……コンクリート強度、鉄筋引張り、木材曲げ試験 材料実験（セメント強さ、骨材比重、骨材ふるい分 け、単位容積重量）		
	製 図		鉄骨造の設計製図	RC造の設計製図 （自動車置場設計製 図）	RC造の設計図 （公民館設計）
	建築設計		部材の性質と応力度	部材の変形と応力	部材の性質と応力度 部材の変形と応力の 演習
	日本建築		住宅設計	日本建築史	町並み、都市計画
	伝統技法		四方転び踏台 柱脚部製作	隅木の作図	隅木の製作
3年	実 習		・実測実習（伝統的建築物の実測・図面作成） ・木造実習（樺隅屋根2級建築大工技能士課題研究及び作成） ・CAD実習（CADによる2階建専用住宅の設計製図及び積算）		
	建築製図		日本建築設計製図 木造建築施工図製図	”	卒業製図
	建築設計		部材の性質と応力度 部材の変形と応力	鉄骨構造 鉄筋コンクリート構 造	構造物の設計
	日本建築		住宅設計	付属建造物	社寺・宮殿
	伝統技法		現寸図作成	現寸図作成	現寸図作成
	課題研究		茶室、町並研究、造園、インテリア、住宅地の構成、CAD、腕 木門		

表6 平成4年度県立高校学校特別講師招へい事業実施要領

1 目的

高い専門性や識見を備え各界で活躍している人を講師に招いて、科学技術の進歩、産業経済の発展、国際化の進展等時代の変化に対応した魅力ある高校教育を推進し、新しい時代を担う人材の育成に資する。

2 事業内容

県立高等学校に特別講師を招へいし、各教科及び特別活動の指導の強化を図る。

3 実施時期

平成4年6月～平成5年2月

4 特別講師

産業界、経済界、学会等で活躍している人及び地域の文化等に貢献している人。

5 指導の形態

指導は、実習、実技、講義等により行う。

6 特別講師招へいの回数等

各学校における特別講師の招へい回数等の基準は、次のとおりとする。

- (1) 県外の講師については、一人の講師について3回（各1泊2日）までとし、1日の指導は5時間までとする。
- (2) 県内の講師については、一人の講師について3日までとし、1日の指導は3時間までとする。

表7 平成4年度特別講師リスト

<p>1 県外</p> <p>(1) 中村昌生先生（前京都工芸繊維大学教授、建築史（数寄屋）、現日本建築専門学校長）元年度2回、3年度2回招へい、本年度は2回予定している。</p> <p>(2) 安井清先生（株式会社安井空工務店副社長）建築施工、元年度3回、2年度3回、3年度3回、本年度は6月と10月に招へいし、11月に3回目を予定している。</p> <p>(3) 早川正夫先生（早川正夫建築設計事務所長）伝統建築設計、2年度1回3年度1回、本年度は10月に招へい</p> <p>(4) 沢村仁先生（前九州芸術工科大学教授）建築史（古建築）2年度1回、本年度は9月に招へい</p> <p>(5) 鈴木嘉吉先生（奈良国立文化財研究所長）建築文化財、2年度1回3年度1回招へい、本年度は11月に予定している。</p> <p>2 県内</p> <p>(1) 村田泉氏（人吉木材市場株式会社会長）木材業（流通）、2年度1回、3年度1回、本年度は10月に招へい、1月に2回目を予定している。</p> <p>(2) 藤島敬介氏（藤島工務店代表者）宮大工、2年度1回、3年度1回、本年度は7月に招へい</p> <p>(3) 柳井純雄氏（県林務水産部森林整備課主幹造林係長）林業（行政）2年度1回、3年度1回、本年度は9月に招へい</p>
--

図1 卒業生の進路

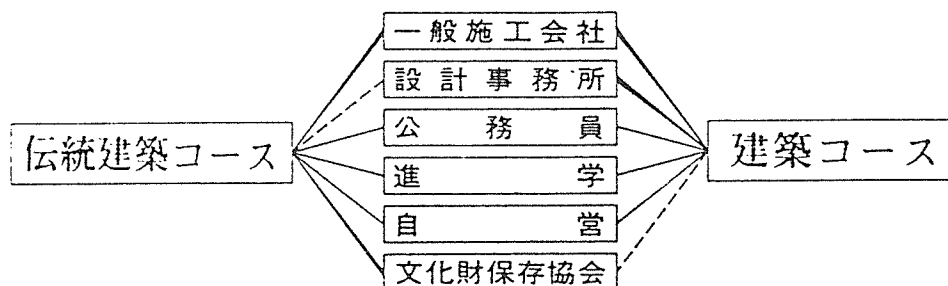
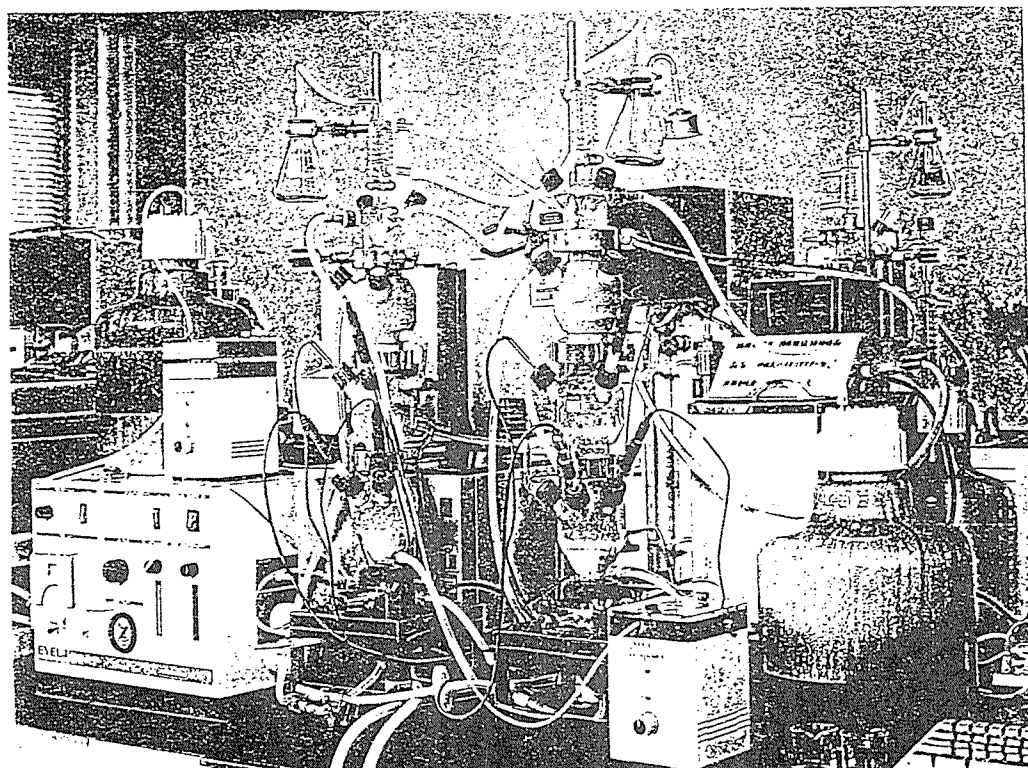


表8 各種資格

- (1) ● 計算技術検定 1～4級
  - トレース検定 1～4級
  - 危険物取扱者
- (2) ● 2級建築士(卒業後3年以上の実務経験)
  - 1級建築士(2級取得後4年以上の実務経験)
  - 木造建築士(卒業後3年以上の実務経験)
  - 建築大工2級技能士(卒業後2年以上の実務経験)
  - 建築大工1級技能士(2級取得後5年以上の実務経験)

参考資料 2. 杜氏育成－新潟県立吉川高校醸造科

新しい時代に向けて地域に生きる特色ある  
高校教育・職業教育をめざす・吉川高校  
醸造科の姿



(バイオリクター装置)

新潟県立吉川高等学校

学校所在地 新潟県中頸城郡吉川町原の町(〒949-34)

電話 0255(48)2300番



## 新しい時代に対応した特色ある教育 をめざす醸造科教育

### ——醸造科の概要——

本校醸造科は、昭和32年いわゆる頸城杜氏の中心地である地元の強い熱意と要望及び、県当局のご配慮等により設置された全国的にもユニークな職業学科（全国唯一の学科）である。

特色ある実験実習を中心に、ゆきとどいた施設、設備等により教育が展開された結果優秀な卒業生を地域社会はもとより、県内外のそれぞれの分野において活躍し高い評価を受けている。特に、国税庁より異例な清酒試験製造許可5,400ℓの許可を受けていることや近代的な施設設備が完備されたことは、県教育委員会はもとより、醸造試験場、関係諸団体等の深い理解と支援によるものである。

### <学科設置の経緯>

**設置の背景** 本校をとりまく地域一円は、稲作単作の純農村地域であり、冬期間の豪雪と小規模農業経営形態という環境から出稼ぎが宿命づけられる中で、少しでも有利性を考慮した出稼ぎとして「酒造出稼ぎ」が盛んとなりいわゆる「頸城杜氏」の中心として知られるようになった。

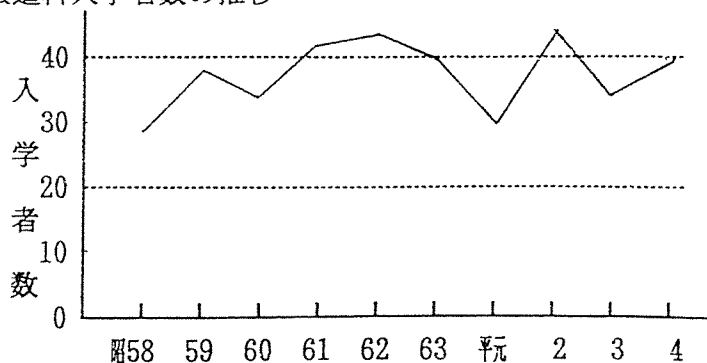
このような背景と産業構造、就業構造の変化による就農率の低下等により、地域の実状に適合した職業教育の要請が高まった。また酒造業界が次第にその就業形態が通年化の方向を見せつつあり、二、三男の就職の対象ともなること、さらには酒造関係後継者育成というねらいから酒造教育に目が向けられ、昭和32年4月本校に醸造科が設置された。

### <生徒の状況>

\*学科別生徒数

年 別	1 年			2 年			3 年			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	合計
普通科	30	32	62	47	61	108	44	46	90	121	139	260
醸造科	29	12	41	25	4	29	31	3	34	85	19	104
合 計	59	44	103	72	65	137	75	49	124	206	158	364

\*醸造科入学者数の推移



\*出身地別生徒数 (学年の1年の3、2・3年の4……醸造科)

出身地名	1 年			2 年				3 年				合 計
	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	
吉川町	23	18	7	12	32	13	8	25	9	16	5	168
柿崎町	5	10	11	12	6	12	8	1	10	8	11	94
大潟町	1	3	13	5	2	2	7	5	9	5	15	67
頸城村	1		3	3		7	1	2			1	18
三和村			1									1
板倉町							1					1
大島村	1											1
上越市			2	2								4
柏崎市			1				2				1	4
長岡市			1									1
見附市			1									1
五泉市			1									1
中蒲原郡							1					1
南蒲原郡											1	1
南魚沼郡							1					1
合 計	31	31	41	34	40	34	29	33	28	29	34	364

<醸造科生徒の進路>

*卒業生総数 (第1回~第33回)	1,075名
酒類製造関係	279名
調味食品関係	83名
製菓関係	50名
一般食品関係	210名
試験研究機関	13名
進学、その他	440名

\*年次別卒業生の進路

進路 学年	卒業生 人数	進学者			就職者			その他
		大学 短大	専門 等	計	県内	県外	計	
醸 造 科	58		1	1	14	15	29	1
	59			0	17	8	25	
	60	1	2	3	20	4	24	
	61	1	1	2	10	11	21	
	62	1	2	3	11	14	25	
	63		3	3	01	6	24	
	平1	1		1	82	13	34	
	2		2	2	21	14	37	
3		1	3	23	9	35		
4		2	3	5	14	4	23	

<醸造科の教育課程>

		4年度入学				3年度入学				2年度入学					
		1	2	3	合計	1	2	3	合計	1	2	3	合計		
国語	国語 I	4			4	4			4	4			4		
	国語 II		2	3	5		2	3	5		2	3	5		
社会	現代社会	4			4	4			4	4			4		
	日本史			3	3			3	3			3	3		
	世界史					10				10					
	地理		3		3		3		3		3		3		
数学	数学 I	4			4	4			4	4			4		
	数学 II		4		4	8	4		4	8	4		4		
理科	理科 I	4			4	4			4	4			4		
	物理			3	3	10		3	3	10		3	3		
	化学		3		3		3		3		3		3		
保体	体育	男	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	
		女	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	
	保健	1	1		2	1	1		2	1	1		2		
芸術	音楽 I	②			②	②			②	②			②		
	美術 I	②			②	2			②	2			②		
	書道 I	②			②	②			②	②			②		
外国語	英語 I	3	3		6	3	3		6	3	3		6		
	英語 II			3	3	9		3	3	9		3	3		
家庭	家庭一般			(4)	(4)	4		(4)	(4)	4		(4)	(4)		
醸造	農業基礎	4			4	4			4	4			4		
	総合実習			4	4			4	4			4	4		
	生物工学基礎		3		3		3		3						
	酒類製造		3		3	男	3		3	男	3		3		
	発酵食品		3	2	5	35		3	2	5	35		3	2	5
	醸造経営			2	2			2	2			2	2		
	発酵化学			3	3	女		3	3	女		3	3		
	食品化学		3	2	5	31		3	2	5	31		3	2	5
	応用微生物	2			2		2		2		2	3		5	
食品製造機器			4	4			4	4			4	4			
				(0)	(0)			(0)	(0)			(0)	(0)		
特活	ホームルーム	2	2	2		6	2	2	2		6	2	2	2	6
	クラブ活動	1	1	1		3	1	1	1		3	1	1	1	3
	男	34	34	34	102	34	34	34	102	34	34	34	102		
	女	34	34	34	102	34	34	34	102	34	34	34	102		

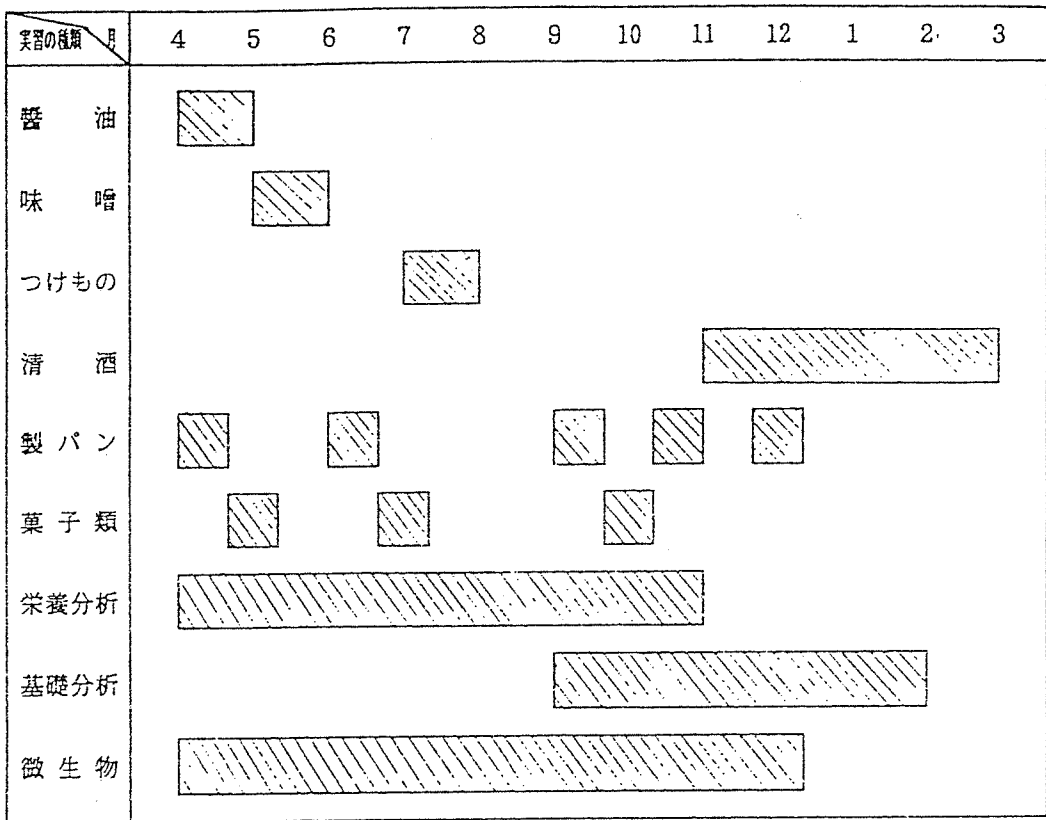
◆ 専門科目と指導内容

科目	目 標	主 な 内 容
農業基礎	農業生物の育成についての体験学習を通して、農業に関する基礎的な知識と技術を習得させる。醸造食品の原材料についても製造とのかかわりについて学習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒造米「五百万石」の特性についての学習</li> <li>・その他の加工原材料の学習</li> </ul>
総合実習	醸造食品、酒類製造の学習と連携して、食品製造の技術、製造の基礎技術、発酵現象の総理解と実践的態度を育てる。	定性分析、定量分析の基礎操作、水原料製品の分析、有機合成、ビタミン脂肪の定量、分析機器による定量分析
酒類製造	発酵原理を理解させ酒類の製法、鑑定試験の技術や知識を習得させる。	発酵概論、清酒、酒税法、ビール、ぶどう酒、その他酒類
発酵食品	酒類以外の発酵食品の製法原理及びその食品の化学的栄養学的知識を学ぶ。	味噌の製造原理と実習、醤油の製法原理と実習、食酢その他の調味料の製法、発酵乳製品の製法、発酵食品全般の貯蔵
醸造経営	品質管理の意義体系を把握し、現場の実施技術を習得させ、品質を重視する態度を養う	品質管理概論、度数分布、統計的分布、検定と推定、管理数相関と回帰、工程解析、検査分析
発酵化学	微生物による発酵の理論と実際の発酵現象の総理解と酵素類の基礎知識を習得する。	発酵と酵素、りん酸糖分解の階梯、酒精、乳酸、酢酸、グルコン酸等発酵
食品化学	食品の成分と栄養について理解させ、食品の分析及び検査に必要な知識と技術を習得させるとともに、これらを食品製造に応用する能力と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の成分と栄養</li> <li>ア、食品の成分と変化</li> <li>イ、代謝と栄養</li> <li>・成分分析及び性質測定</li> <li>・食品衛生検査</li> </ul>
応用微生物	各種菌類の分離、培養分類、生理等の基礎知識と技術習得、実際に応用する能力と科学的態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物の種類と利用</li> <li>・微生物の生理</li> <li>・微生物の分離と培養</li> <li>特に発酵微生物学に関する内容及びバイオテクノロジーの利用に及ぶ。</li> </ul>
食品製造機器	食品製造に関する機器の構造、機能及び操作に必要な知識と技術を習得させるとともに機器の適切な選択と管理ができる能力と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品製造機器の基礎</li> <li>・主な醸造用の機器と装置</li> <li>ア、輸送機器、伝熱装置、分離装置</li> <li>イ、混合、攪拌、乾燥、圧搾機等</li> <li>ウ、ボイラーと燃料</li> <li>エ、冷凍と冷蔵</li> </ul>
生物学基礎	基礎的基本的微生物工学の技術を習得する。	微生物の同定技術、核融合、酵素生産、バイオリクター等。

<醸造工場の方針設計、設備備>

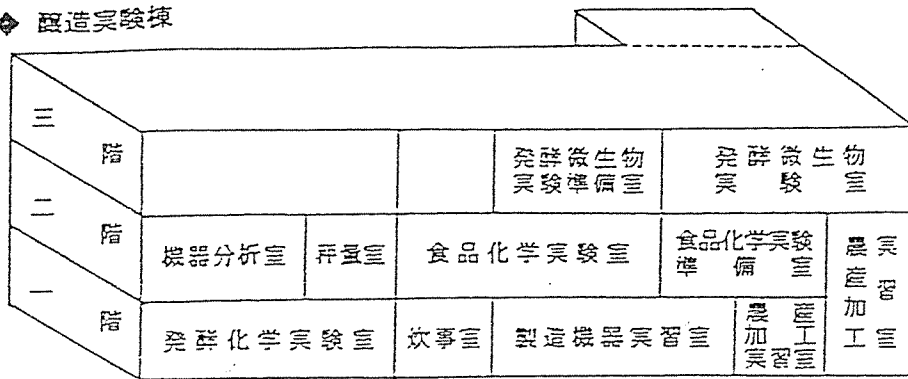
施設名	広さ㎡	主なる設備
①清酒関係		
清酒発酵室	28.67	ホーロータンク(1500ℓ)4基
酒母室	13.63	酒母タンク(400ℓ)2基
麹室	15.13	自動製麹機
原理処理場	78.10	蒸きょう装置、流水洗米機、仕込水冷却装置、蒸米放冷機
圧搾貯蔵室	86.40	密閉貯蔵タンク(2500ℓ)2基、ホーロータンク(1500ℓ)4基、水圧機、圧搾機、ろ過機
精米室(農産加工実習室)	40.50	佐竹式16インチ精米機 1基
②醤油、味噌関係		
原料処理場	40.50	大豆蒸煮釜
麹室	11.88	自動製麹装置
味噌仕込室	14.95	味噌発酵槽
醤油仕込室	24.30	醤油発酵槽、輸送ポンプ
製造処理室	66.42	火入機、自動びん詰機、びん洗機、真空包装機 王冠打栓機
圧搾室	16.80	水圧機、圧搾槽
原料倉庫	6.24	
器材倉庫	9.60	
麦炒室(農産加工実習室)	40.50	麦炒機、割碎機
③つけもの関係		
つけもの仕込室	18.40	
④実験関係		
発酵微生物実験室	121.50	乾熱滅菌器、恒温槽、ドラフト
微生物実験準備室	81.00	資料、顕微鏡、高圧滅菌釜、定温器、バイオリアクター装置
食品化学実験室	121.50	ケルダール分析装置、ドラフト、酒精測定装置、遠心分離機
秤量室	40.50	化学天秤、直示天秤
機器分析室	81.00	光電比色計、光電分光光度計、ガスクロマトグラフィ、ポーラログラフィー、PHメーター
食品化学実験準備室	81.00	電気炉、自動洗浄装置、純水製造装置
発酵化学実習室	121.50	精溜装置、ジャーフェーメンター、ワールブルグ検圧装置、ホイロ、電気オープン、パン用ミキサ
製造機器実習室	121.50	冷凍庫、冷蔵庫 熱伝導度測定装置、流動実験装置、分解組立用教材
薬品庫	20.25	
⑤その他		
醸造実習管理室	18.86	
教師宿泊室	17.22	
生徒宿泊室	25.82	
ボイラー室	19.44	

◆ 醸造関係実習計画

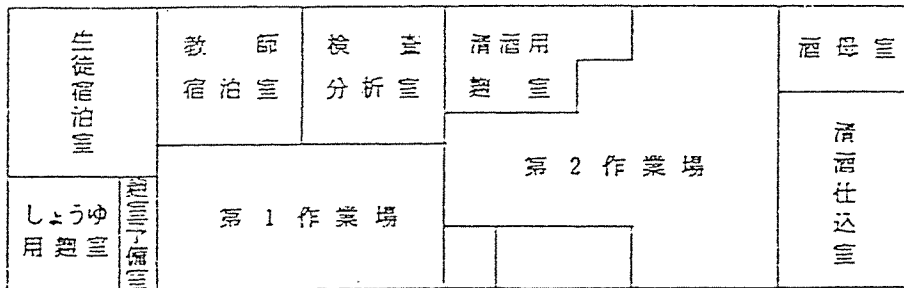


〈 設備配置図 〉

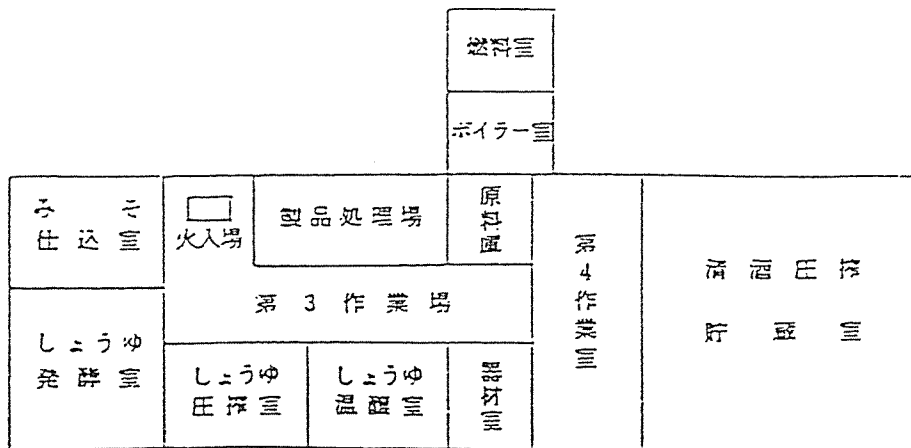
◆ 製造棟設備



◆ 製造棟設備



( 2 階 )



( 1 階 )

### 参考資料3. 木造建築担い手研修受講者アンケート結果

- ①宮城
- ②福島
- ③東京
- ④静岡
- ⑤福井
- ⑥滋賀
- ⑦兵庫



## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（宮城）

### ◎平成4年度事業の成果

#### 問1－（1）住まい

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①仙 台 市	5	62.5	22	64.7	27	64.3
②仙台市以外	3	37.5	12	35.3	15	35.7
計=問1－(2)	8	100.0	34	100.0	42	100.0

#### 問1－（3）年齢

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①19歳以下	0	0	1	2.9	1	2.4
②20～29	1	12.5	7	20.6	8	19.0
③30～39	2	25.0	8	23.5	10	23.8
④40～49	1	12.5	15	44.1	16	38.1
⑤50～59	2	25.0	3	8.8	5	11.9
⑥60歳以上	2	25.0	0	0	2	4.8
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

#### 問2 受講講座

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①第1講座のみ	2	25.0	0	0	2	4.8
②第2講座のみ	0	0	30	88.2	30	71.4
③第3講座のみ	1	12.5	0	0	1	2.4
④第1及び第3	5	62.5	0	0	5	11.9
⑤第2及び第3	0	0	4	11.8	4	9.5
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

問3 全体評価

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①大変よかった	1	12.5	3	8.8	4	9.5
②良かった	7	87.5	21	61.8	28	66.7
③余り良くなかった	0	0	8	23.5	8	19.0
④良くなかった	0	0	1	2.9	1	2.4
無 回 答	0	0	1	2.9	1	2.4
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

問4 問3③④の理由

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①既に知っていた	0	0	1	11.1	1	11.1
②期待はずれ	0	0	4	44.4	4	44.4
③難しすぎた	0	0	2	22.2	2	22.2
④そ の 他	0	0	2	22.2	2	22.2
計	0	0	9	100.0	9	100.0

④・もっと具体的に 2名

◎来年度のみやぎビルダーズスクールに向けて(要望)

問5 - (1) 開催時期(月)

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
1 月	0	0	0	0	0	0
2	1	12.5	2	5.9	3	7.1
3	0	0	1	2.9	1	2.4
4	0	0	2	5.9	2	4.8
5	1	12.5	5	14.7	6	14.3
6	2	25.0	1	2.9	3	7.1
7	0	0	2	5.9	2	4.8
8	0	0	3	8.8	3	7.1
9	3	37.5	10	29.4	13	31.0
10	0	0	1	2.9	1	2.4
11	0	0	2	5.9	2	4.8
12	0	0	0	0	0	0
無 回 答	1	12.5	5	14.7	6	14.3
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

問5 - (2) 開講の曜日

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①今年と同じで良い	6	75.0	14	41.2	20	47.6
②①でいいが月末避けてほしい	1	12.5	3	8.8	4	9.5
③日曜日が良い	0	0	0	0	0	0
④平日で良い	1	12.5	12	35.3	13	31.0
⑤期間を設定、集中的に	0	0	5	14.7	5	11.9
⑥そ の 他	0	0	0	0	0	0
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

問5 - (3) - 講義あたりの時間

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①今年と同じ2時間	6	75.0	23	67.6	29	69.0
②1 時 間	0	0	0	0	0	0
③3時間以上	1	12.5	9	26.5	10	23.8
④そ の 他	1	12.5	2	5.9	3	7.1
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

- ④・90分 2名
- ・場所による条件付 1名

問6 研修の進め方

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①今年と同じで良い	1	12.5	5	14.7	6	14.3
②討議方式にして欲しい	1	12.5	10	29.4	11	26.2
③実技講習も実施して欲しい	3	37.5	10	29.4	13	31.0
④講師に任せる	2	25.0	8	23.5	10	23.8
⑤そ の 他	1	12.5	1	2.9	2	4.8
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

- ⑤・後半に討議の時間を設ける 1名
- ・講義の他に質問時間を設ける 1名

問7 開講場所

	男 性		女 性		合 計	
	回答数	比 率	回答数	比 率	回答数	比 率
①今年と同じで良い	6	75.0	18	52.9	24	57.1
②JR・地下鉄沿線	0	0	12	35.3	12	28.6
③地域毎に実施	2	25.0	3	8.8	5	11.9
④そ の 他	0	0	1	2.9	1	2.4
計	8	100.0	34	100.0	42	100.0

- ④もう少し中心部が良い 1名

問8 その他（意見・要望等）

－男性－

- 受講者を増やす手段はないか
- 野辺先生の講義はよく理解できた。次回は仙台市中心の情報を題材にしてほしい
- 営業・技術にも役立つ講義にしてほしい

－女性－

- 参加してとても刺激になった。参加してよかった（同様2名）
- 職場での今後の企画に対するヒントが得られた（同様1名）
- 講義が中止になったことについて（3回目の五十嵐先生の講義が聞けず残念、中止になったら補講を）
- 場所が遠い（不便）（同様1名）
- 期待していたものとは違って（物足りない）が、今後に期待したい（同様2名）
- 来年も参加したい
- 情報交換ができて良かった
- 時間が足りない
- 難しかった（今日はこれを教わってきたという実感がほしかった）
- 実技講習もあると良い
- 女性の成功例を聞きたかった
- スライドの内容は的外れが多かった
- 需要者を対象の育成講座の方が、需要も増え現実的と思う
- ハウジングウーマン養成とありながら、女性を生かした講座となっていない
- 主催者側の不備目立った
- 連絡調整を密に願いたい
- インテリアの仕事をしている。カーテンを飾る窓を選ぶ段階から、家造りにかかわれるのが夢
- インテリア、デザインを勉強して仕事に役立てたい。住宅関係の仕事に役立てたい。
- もう少し掘り下げて、内容の濃い勉強がしたい（同様3名）
- 意見交換の時間（場）を増やしてほしい（同様2名）
- 資格取得のための講座も開いてほしい（有料でも良い）。就職先のアドバイスもしてほしい（同様1名）
- 企画は良いのだから、内容を検討してほしい（工務店や現場の人の意見を取り入れて）（同様2名）
- 来年もハウジングウーマン養成講座を開講してほしい
- 期間を集中してやってほしい
- 初→中→上級と段階を踏んで進んでほしい
- テキストを事前に渡してほしい

- 岩井先生の講義を増やしてほしい
- 現場で活躍している人を講師に（例えば岩井先生）
- 介護住宅も取り上げてほしい
- 地元の大工さん達の、モデルハウスにはない優れた工法や利点をもっとアピールしてほしい

木造建築担い手研修受講者アンケート結果 (福島)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
住所 20代 30代 40代 50代 60代 70代	勤務先業種 ①工務店 ②工務店 ③大工 ④大工 ⑤設計事務所 ⑥設計事務所 ⑦不動産 ⑧建築業 ⑨建築業 ⑩官公庁 ⑪その他	従事している主な仕事 ①経営 ②施工 ③営業 ④設計 ⑤積算 ⑥調査 ⑦教育 ⑧その他	現在の立場 ①親の跡を継ぐ ②二世帯 ③二世帯 ④二世帯 ⑤二世帯 ⑥二世帯 ⑦二世帯 ⑧二世帯 ⑨二世帯 ⑩二世帯 ⑪二世帯	主に取り扱っている建築構造 ①木造建築物 ②木造建築物 ③木造建築物 ④木造建築物 ⑤木造建築物 ⑥木造建築物 ⑦木造建築物 ⑧木造建築物 ⑨木造建築物 ⑩木造建築物 ⑪木造建築物	6 昨年取り扱った木造住宅の棟数 軸組 1~9棟 10~19棟 20~29棟 30~39棟 40棟以上	7 研修の全体評価 ①大変良かった ②良かった ③あまり良くなかった ④良くなかった	8 良くなかった理由 ①内容が抽象的でよくと ②既に知っていたことと ③期待していたものと ④内容が難しすぎた ⑤その他	9 来年度も行おうとしたら ①参加する ②参加しないう ③参加しない ④その他	10 今後のテーマは ①経営 ②営業 ③設計 ④積算 ⑤建築・設備 ⑥施工・技術等の実習 ⑦施工技術 ⑧関係金 ⑨融資 ⑩その他	11 研修の実施方法 ①年間同様が良い ②経営的なものと技術 ③その他 期間 ①今年と同じ位が良い ②同じ位で連続して ③その他 曜日 ①大安、吉日は避けた ②土日が良い ③土日でない方が良い ④その他

木造建築担い手研修アンケート結果（東京）集約表

月日	10/3 (±)		10/17 (±)		10/24 (±)				10/31 (±)		総 合	
	木の良 さと環 境問題	建設省の 木造住宅 振興施策	消費者 から見 工務店	高齢化 時代の 住宅技術	仙 連小 森	大 宮共 販所	層 分 譲 宅	ビ デ オ 上 映	規 矩 街 入 門	これ から の工 務店 に求 めら れる課 題	全 体 を 通 じ て	来 年 度 に む け て
(1) 大変よかった。 大変勉強になった。	77.6	42.8	53.3	85.5	42.0	16.0	8.0	28.0	56.0	30.0	60.0	% 是非実施 してほしい 76.0
(2) 一部よかった。 一部勉強になった。	12.2	38.8	40.3	12.9	22.0	32.0	30.0	28.0	24.0	42.0	34.0	どちらで もよい。 20.0
(3) あまりよ くなかつた。	2.0	10.2	3.2	0	0	16.0	26.0	6.0	4.0	16.0	0	実施はな くてもよい。 0
(4) 未回答	8.2	8.2	3.2	1.6	36.0	36.0	36.0	38.0	16.0	12.0	6.0	回答なし 4.0



## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（東京No.1）

### 1. 木材の良さと環境問題について(10/3講師＝有馬 孝禮氏)

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 38(77.6%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 6(12.2%)  
(3)あまりよくなかった。 ————— 1(2.0%)  
(4)未回答 ————— 4(8.2%)

#### 感想

- ◎木材の大切さ(良さ)がわかりました。自然との調和の必要性を実感しました(他5通)  
◎先生の説明はわかりやすく(話しがうまい)、大変勉強になり又参考にもなった(実験データ・スライド等により大変聞きやすかった)(他14通)  
◎ゴミ問題と住宅着工の点では考え方の違いがあり、環境の点では考えさせられた。もっと重点を絞った話しの方が良いのではないかと思った(他1通)  
◎これからも木造住宅が減る事は無いと思いました。  
◎新築戸数が年間120万戸建とうが100万戸になろうがそんなことを聞いても意味が無い。だから何をどう考えて経営するのかを勉強しているのに、いつも大学の教授とか助教授というのはマスターベーションが好きで我々が何を聞きに来ているのか、全然解っていない。得意顔で偉そうに講釈するな、ばかばかしい。  
◎私は木造住宅は資源の無駄使いだと思う。日本には木造住宅は駄目。法律で規制すべきだ、思いきった事をしないといけない。  
◎植林(天然材)の重要性、再生資源の利用が環境保全に役立っている事が勉強になった(他2通)  
◎今日まで木材を使用する事だけしか考えていなかったのですが、環境に対して色々な事が知っただけでも大変良かったです。  
◎もっと時間を取ってほしい(他2通)  
◎木材を自信をもってPR出来る気がしました。仕事の話しに大変参考になります(経営上大変重要な情報を得た)(他1通)  
◎木材の耐火の性質についての話しがおもしろかった(他2通)  
◎木材がCO<sub>2</sub>のストッカーだとは知らなかった(CO<sub>2</sub>を理解できた)(他2通)  
◎話しが少し解りにくいところがあった。  
◎専門的な知識を得られてよかった。  
◎講義の通り、このような物は造らず、良質の物を造るよう勉強したいと思います。

### 2. 木造住宅振興施策について(10/3講師＝河野 元信氏)

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 21(42.8%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 19(38.8%)  
(3)あまりよくなかった。 ————— 5(10.2%)  
(4)未回答 ————— 4(8.2%)

#### 感想

- ◎行政トップサイドの木造住宅振興施策について多方面にわたっての講演内容は、他では聞かれない貴重なものと感じた。  
◎もう少し具体的な話しをしてほしかった。  
◎大工も本当にどれだけの賃金が入っているのか、調査をして公表して下さるようお願いします。  
◎木造住宅の色々な状況(現状)がわかった(他1通)  
◎話し方が良かった。理解しやすく又資料がよかった(勉強になった)(他2通)

- ◎目新しい情報があまり見受けられなかった。
- ◎後継者養成、外国人労働者等、次期対策に望むところは寛大である。
- ◎話しかたが、解りにくい(もっと話しの上手な人に講義を頼む)(他1通)
- ◎在来工法が伸びない理由が書面で分ってきた。具体的な内容も含めて楽しかった。
- ◎一般的に言われている事が多く、あまり興味を持てなかった(他2通)
- ◎新設住宅をどんどん進めて家賃を安くして下さい。
- ◎一部勉強(統計資料などは大変詳しく出ている)になったが、全体的に話しがつまりませんでした。今後しなければいけない事は分りましたが、どうすれば良いのか具体的な事(対策)が分かりません(他2通)
- ◎よく勉強しているしデータが説得力を助けている。明確で聞いていて眠くならない。
- ◎住宅メーカーの支援にしか思えない。建設省の態度は。
- ◎話し方が早く聞き取りについて行けなかった(声が小さい)
- ◎一部分らないとこがありました。森林関係の為の事で仕方ない。
- ◎最新の情報が聞けてよかった。
- ◎都市における不燃化との関係をもっと話してほしかった。
- ◎住宅振興をもっと進めて欲しい。また在来工法のPRが必要だと思った。

### 3. やってほしい企画・感想・意見

- ◎木材の種類についての性質を詳しく知りたい。
- ◎CAD・CAMの現場の二つを視察する企画をして下さい。
- ◎全日程終了してからにしてください。
- ◎女性作業員の生かし方について。
- ◎住宅融資など話しについて。
- ◎若手人材の育成について町場の工務店での成功している事例などを紹介してほしい。
- ◎参加者同志の交流の機会(懇親会など)もあっては良いのでしょうか。
- ◎時間をもっと長く出来れば日曜日にやってもらいたい。
- ◎三階建住宅の見学。
- ◎数字の説は不要ですから、今後どの様に開発すべきかを私達は聞きたいのです。
- ◎次回も参加します。
- ◎木材のCO<sub>2</sub>の関係とその効用効率までは知らなかった。木の耐火防湿保温、マウスの成長実験など、今までの科学的実験結果を知り、木材の良さを痛感した。
- ◎建築労働者の養成発展の政策には大いに期待をしています。
- ◎現場スライド等、もっと取入れて現実的な内容を取入れたら良いと思う。
- ◎テーマを決めた討論会等、我々大工の意見を大学の先生方に聞いてもらえるような場が欲しい。
- ◎木材加工の方法、組み方、ホゾの入れ方、すじかいの強度等、現場の立場での学習会を行ってもらえたらと思います。
- ◎営業・設計・商品企画力の倍増の方法。
- ◎見学会等を行ってほしい(プレカット工場の見学)(他1通)
- ◎質問は個別に行ってほしい。
- ◎大変結構な企画です。是非お願いします。特に若い人に聞かせたく思いましたので、毎年の企画楽しみに聞かせてもらいます。
- ◎これからの工務店の若手大工の意見などを聞き、これからの木造住宅供給の為に、行えるかを話し合ってもらいたい。
- ◎住宅完成後、施主に引き渡し後のクレーム処理、その他諸々の施主とのトラブル問題についての企画をして欲しい。例えば住宅メーカーなどはどの様に対処しているか教えてもらいたい。
- ◎つまらん大学の教授の話はいらぬと思う。かえって役所の方の話は十分な下調べと勉強しているので、非常に分かりやすく今後どういう展開をしていくかのヒントになった。

## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（東京No.2）

### 1. 消費者から見た工務店について(10/17講師＝高橋 公子氏)

- (1)大変よかった。大変勉強になった。————— 33(53.3%)
- (2)一部よかった。一部勉強になった。————— 25(40.3%)
- (3)あまりよくなかった。————— 2(3.2%)
- (4)未回答————— 2(3.2%)

#### 感想

- ◎大変参考(勉強)になりました(他4通)
- ◎あまり的を得た話では無かった様に思えたが、話しの内容としては再確認(工務店の役割)させられた。
- ◎設計者、大学教授から見た工務店だった。
- ◎当組合でも話しを聞きたい。
- ◎住宅メーカーや女性との話。
- ◎もう少し話に、まとまりがあれば分りやすかったと思います(他2通)
- ◎もっと分りやすいレジメがほしかった。標題と違う方向の話の为一層それが必要だった。本人も言うようにかなり雑学的な内容だった。勉強にはなった(他2通)
- ◎工務店は空間を認識できる能力を高め施主を導いて行くべきとの話に共感し、また住環境に対する意識改善、必要性を痛感した。
- ◎消費者の立場から又工務店の立場から見た経験の話をしてくれてとても良かった。
- ◎住居プランニング(サンプルを使って)をもう少し勉強したかった(他1通)
- ◎ポイントを絞った内容にした方が時間内にまとまった講演になったのではないか。
- ◎住宅メーカーの裏話が聞けて大変良かった。
- ◎消費者と工務店のトラブルの話を詳しく聞きたい(他2通)
- ◎施工者と発注者の思惑の違いがよく分った。
- ◎工務店(施工者)は施主に対して作る人のみでなく創造する(設計する)立場を持つと言う話が大変良かった。
- ◎話しは大体分ったが、これと言うものがなかった。
- ◎再認識と未来に向かっての勉強、体験を話して伝える責任がある。
- ◎時間が短かった。
- ◎講演内容が実用的で大いに施工者の対応の心構えに力を持てる。一步前進の妙を得られた。
- ◎住環境や町並みに関わる外観の大切さがこれから必要だと思った。
- ◎工務店が人と社会にどのように関わって行けば良いのか、考えられる内容でした。

## 2. 高齢化時代の住宅の技術について(10/17講師=野村 敏氏)

- (1)大変よかった。大変勉強になった。———— 53(85.5%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。———— 8(12.9%)  
(3)あまりよくなかった。———— 0( 0%)  
(4)未回答———— 1( 1.6%)

### 感想

- ◎改築を簡単にするために、あらかじめしておくこと等、住む人本意のすまいを心掛けようと思った(他1通)  
◎これから住宅を設計するに当って非常に参考(勉強・役に立つ)になる話だ(他11通)  
◎ハンドルレール・洋式トイレが良かった。  
◎身障者と高齢者とはイコールでない部分が多くあるのではないか。もっと小さなもの(障害度)が聞きたい。  
◎高齢者、障害者に対する細かい配慮が少し理解出来ました(他1通)  
◎生涯住宅になるのでしょうか。  
◎もう少しディテールについて話してもらいたかった。  
◎当組合でも話を聞きたい。  
◎高齢者住宅(構造・福祉機器)の話や計画の事が良かった(他1通)  
◎スライドを使った説明は話だけよりも視覚的にとらえる事が出来て大変良い(他2通)  
◎普段考えられない事があったり、高齢者でなくても必要な事であるような気がした。  
◎多方面の情報、データによる講演内容は大変実務にも役立つ良い内容と思います。  
◎私が年金をもらう頃には65才以上の老人が5～4人に1人の割合になるから大変だ。  
◎話が分りやすかった。  
◎子供も老人も人間として絶えず考える事が基本です。但し万が一の事があるので、大変参考になった。  
◎もう少し時間をかけてほしかった。  
◎これから家を造るのに高齢者からの目で考える事も出来るようになった。  
◎高齢者の家の中での行動や、立ったり座ったりした時の力の掛け方などがよくわかった。

## 3. やってほしい企画・感想・意見

- ◎今後若い工務店の大工、職人達に色々な経験談を聞かせていただければ嬉しいと思います。  
◎木造住宅の省資源化について企画してほしい。  
◎来年も是非セミナーを開いて下さい(参加したい)(他4通)  
◎プレカット、キャドなどの機器の講演もやってほしい。  
◎セミナーの時間を考えてもらいたい。開催時間が午後1時で行きにくい時間だと思います。一日潰れるので午前中の開催が良いと思います(他1通)  
◎高断熱、高气密についてぜひ講義をしてもらいたい。

## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（東京No.3）

〈10/24茨城県現地研修〉

### 1. 瓜連小学校見学について

（注）未回答が多いのは、アンケートを記入してもらったのが10/31の為、必ずしも全員が出席していません。

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 21 (42.0%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 11 (22.0%)  
(3)あまりよくなかった。 ————— 0 (0.0%)  
(4)未回答 ————— 18 (36.0%)

感想

- ◎集成材の使い道の広がりを感じた(他3通)
- ◎柱部材の応力学的な構造など、木材の利用価値の見直しすら感じられ良かった。
- ◎子供たちが生き生きと感じた。この学校で学べる生徒は幸せである。木の良さを肌で感じる学生がうらやましい(他1通)
- ◎うちの工務店もやってみたくなった。
- ◎見学時間が足りず設計者の話をもう少し聞きたかった(バスが遅れたため)(他3通)
- ◎瓜連小では鉄筋コンクリートの建物も共存していましたので、それぞれの教室等で実際使用している生徒の話が聞きたかった
- ◎体育館見学がよかった。
- ◎写真で見ると実際に入って見るとでは印象が全く違い、木造校舎の良さを直に経験できたのでよかった。  
(雑誌で知っていたが実際に見れて大変良かった)(他4通)
- ◎現在における木造の意義、問題点等がわかるような気がした。
- ◎機会と絶好の見学先を見つけて、このようなことを続けて下さい。
- ◎施工主主体の強い意志が木造建築に反映された事に共感を覚えた。
- ◎木造建築に理解を持っているのには感心した。

### 2. 梶森連大宮共販所見学について

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 8 (16.0%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 16 (32.0%)  
(3)あまりよくなかった。 ————— 8 (16.0%)  
(4)未回答 ————— 18 (36.0%)

感想

- ◎丸太を見る機会があまりないのでよかった。
- ◎これからは共同で木材を買うなどの考え方を持った方が良いと思う。
- ◎意味が無い、見学の主旨がわからない、又説明が無い(数字を聞いてもわからない)(他3通)
- ◎原木はあまり関係ないように思えたが、銘木は大変参考になった(他2通)
- ◎いろいろな品物があって良かった、お土産も買ってきた。
- ◎実際に原木を見学できてよかった。
- ◎雨でじっくり見学が出来なくて残念だった(他2通)
- ◎色々な材木(杉、松以外)を見たかった。
- ◎入札の現場が見れたらもっと良かった。
- ◎国内材の良さと生かし方にもっと力を入れて欲しい。国内産の良さをアピールすべきだ。

◎昼食時間の遅れ、段取りの悪さ主旨の不明確さ、一体何を見てほしいのか解らない。丸一日無駄にしたと非常に後悔した。企画力の乏しさ、勝手な自己満足、腹が立つ。

### 3. 分譲住宅見学について

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 4 (8.0%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 15 (30.0%)  
(3)あまりよくなかった。 ————— 13 (26.0%)  
(4)未回答 ————— 18 (36.0%)

#### 感想

- ◎雨が降っていたので困った。  
◎町造りも良かったが建物の個々に異なった仕上りは大変良い結果を生みだしていると思う。  
◎なんとなくボーッと見学してしまった。なにを見せたいのか、なにを見ればよいかわからなかった。  
雨の中の短時間の見学であったので内容がよくわからなかった(他2通)  
◎県産材を使用しているとのことでしたが、仕上が耐火ボードの上にクロスでは一般の建売と変らないのではないか。  
◎もう少し地域的な住宅が見たかった。  
◎東急の建売は見た目はいいが安っぽく感じた。  
◎骨組の時期に見れると良かった。  
◎良く造ってあった便利さが問題でそれが良くなれば買いたい物件であった。  
◎PRを聞きにいったのではないと思うが説明はほとんどPRだけ。  
◎東急不動産の方々に感謝します。  
◎ちょっと住みずらい感じがした、カーテンレールが当たってクロゼットのドアが開かない(2ヵ所とも)  
◎モデル住宅2ヵ所とも見たが段差あり、狭い階段で手すりも無く又粗雑な住宅という印象です。

### 4. バス内でのビデオ上映について

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 14 (28.0%)  
(2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 14 (28.0%)  
(3)あまりよくなかった。 ————— 3 (6.0%)  
(4)未回答 ————— 19 (38.0%)

#### 感想

- ◎営業の手ほどきが楽しかった(他2通)  
◎5本以上の上映は少々辟易した(他1通)  
◎ログハウスが勉強になった。  
◎後の席で良く見えなかった。  
◎仕事上大変役にたつのではないか。  
◎基本的な人との接し方は気を付けなければと改めて思った。  
◎セミナーの中で取上げてもいいものだった。  
◎クレーム処理等は当りの前のことで又契約を取る場面等はおそこまでやるのはどうかと思った。  
◎セールスのビデオを見て頭が痛くなった。  
◎普段から気になっていた事でも再度映像で見ると実感が出る。多少の予算を計上してお互いのコミュニケーションも計画の中に入れてもらいたい。

## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（東京No.4）

### 1. 規矩術入門と教え方について(10/31講師＝増田 実氏)

- (1)大変よかった。大変勉強になった。 ————— 28(56.0%)
- (2)一部よかった。一部勉強になった。 ————— 12(24.0%)
- (3)あまりよくなかった。 ————— 2(4.0%)
- (4)未回答 ————— 8(16.0%)

#### 講演の感想

- ◎もう少し時間をかけて講演してもらうべきだ。(頭の中でイメージ出来なく、理解できる部分が少なかった)
- 説明が早くついていけなかった(時間が足りない)(他19通)
- ◎普段使用してないのでよく分らないが、規矩術だけで年間を通して講演をしてほしい(また講義を聞きたい)(他4通)
- ◎大変難しかったが基本が分れば、面白いと思う。
- ◎難しい面もあったが、もう一度勉強しなければならないと思った。
- ◎短い時間で分りやすく話してくれた(他1通)
- ◎さしがねを実際を使って勉強してみたい(墨付け加工)、でないとなかなかわからない。
- 模型(実習用教材)などを使って説明してもらいたかった(立体の説明を平面でするのは無理があるようだ)(他4通)
- ◎四方転びか桁か一つに絞った方が良かった。
- ◎こうした技能(知識)を後世に伝えていくことの重要性を実感した。
- ◎ほとんど理解する事が出来なかった。もう少しレベルを下げしてほしい(他2通)
- ◎専門外で評価できず。
- ◎黒板が小さくみづらかった。
- ◎私も検定委員ですが生徒に教える参考になりました。

2. これからの工務店経営に求められる課題(10/31秋山 哲一氏)

- (1)大変よかった。大変勉強になった。————— 15(30.0%)
- (2)一部よかった。一部勉強になった。————— 21(42.0%)
- (3)あまりよくなかった。————— 8(16.0%)
- (4)未回答————— 6(12.0%)

感想

◎学者タイプの講義かと思っていたが、大変私達の身近な問題点を取上げてよかった

(若い先生が一生懸命話してくれてよかった)(他1通)

◎あまり良く理解が出来なかった(あまり関心がない)(他2通)

◎考え方がよくわかり、参考になった(スライドも良かった)(他1通)

◎木材や加工についても取上げてほしい。

◎工務店経営の説明が少ない(聞きたい話と違う・テーマが少し違う)(他4通)

◎学術的にはよく研究されてると感じた。

◎今後は工務店が中心になる事はないと思う。住宅メーカーが主体となっていくと思う。

◎それぞれの工夫が現にあり、またしていかなければならないと思った。

◎東京についての話しがもっとほしかった。

◎各地域の例がわかり良かった。

◎これからの工務店の問題として地域協同化は一部で行われていると思いますが、一長一短がありなかなか進んでいかないようです。

◎各方面の協力、動向は理解できましたが、ますます小さい工務店は生き残れなくなるのではないかと思った。

◎統計的な学問的計画も良いが実質的な計画経営改善の実感のこもった講演が欲しかった。もう少し経験のある方を望む。



## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（東京No.5）

（10/3. 17. 24. 31の全体を通じて）

### 1. あなたの参加の回数は

- (1) 1回 ————— 4 ( 8.0%)
- (2) 2回 ————— 8 (16.0%)
- (3) 3回 ————— 9 (18.0%)
- (4) 4回 ————— 28 (56.0%)
- (5) 未回答 ————— 1 ( 2.0%)

### 2. 全体を通じて

- (1) 大変よかった。大変勉強になった。 ————— 30 (60.0%)
- (2) 一部よかった。一部勉強になった。 ————— 17 (34.0%)
- (3) あまりよくなかった。 ————— 0 ( 0.0%)
- (4) 未回答 ————— 3 ( 6.0%)

#### 感想

- ◎会場がJRAの前で欲求が溜まった。
- ◎建築技能の変化と社会の進展に合せ、とかく一人よがりの業界には尚一層望み、後継者の先細い是正には大いに期待する。
- ◎特に高齢者住宅と規矩術はとてもよかったです。
- ◎普段勉強する機会が無いので良かった。
- ◎1回目の建設省の役人の方と2回目の消費者の見た工務店が良かった。
- ◎技術よりも経営の方を重視した方が良いと思う。
- ◎全体の課題をもう少し統一してもらった方が良かったように思えます。

### 3. 来年の実施は

- (1) ぜひ来年も実施してほしい ————— 38 (76.0%)
- (2) どちらでもよい ————— 10 (20.0%)
- (3) 実施しなくてもよい ————— 0 ( 0.0%)
- (4) 未回答 ————— 2 ( 4.0%)

### 4. 全体を通じた感想・要望等

- ◎時間的に都合するのに苦労した。
- ◎建設業界の進展と施主の道行に対し、その折々の進展に伴わせた研修は欠かせないものであるから、絶対に実施をし、未来の技能

- 技得の向上を計ってもらいたい。多少有料化しても良いから終了証なども考えるべきだ。
- ◎良い企画で大変参考になった。土曜の午後のセミナーで参加しやすい企画でした。
  - ◎規矩術はもっと時間を取った方が良い。(大変参考になり、勉強になった)次回もぜひ参加したい。次回のセミナーの案内をダイレクトメールで希望します(他3通)
  - ◎カリキュラムを欲張らないでテーマを絞ってわかりやすい話しをしてほしい(絞った方が身につくと思う)。日程をもっと沢山取ってほしい(他2通)
  - ◎講師の先生方のお話しを納得したり、否定したり普段仕事以外で話しを聞く事はありませんので大変良かった。
  - ◎今回は大学等の教授の方の講義が多かったが、実際の現場における問題点を提起するために、メーカー、設備業(増改築に関する事)工務店設計事務所の方の話しも聞きたかった(他1通)
  - ◎ハウジングセミナーだから、もう少しやわらかくやった方が良い。
  - ◎若い人がもっと参加し、勉強できるようなカリキュラムの工夫が今後必要と思う。後継者養成の位置付けをもっと明確にしたセミナーが今何よりも重要ではないか。
  - ◎期間を限定したものではなく継続的な勉強会などはないものか。
  - ◎木造住宅助成に関わる制度の確立を推進して下さい。
  - ◎いろいろなジャンルの先生方の話しを聞け大変良かった。次回出来れば消費者サイドの話をもっと聞けると良いと思います。
  - ◎17日の技術の講義が印象に残りました。バス見学、企画は大変良かったと思います。
  - ◎もっとPRして多くの人に研修の良さを教えたいです。
  - ◎もう少し主催者側が全体のテーマと講義の内容を把握すべきではないか。我々も忙しい中を参加しているのだから、この程度の内容であれば仕事をしている方がよっぽど自分の為になる。
  - ◎木造建築、住宅を基本から考え勉強しなければと思った(木材の良さがわかった)
  - ◎主催者側の気配りにより、毎回参加する事が楽しかった。
  - ◎来年も是非実施してほしい(但し回を重ねる度に中味を変えてほしい)(他2通)
  - ◎他の講座にも参加したかったのですが、都合つかず残念です。
  - ◎各講師の持ち時間が少ない(短時間で講義する先生がかわいそう)(他1通)
  - ◎東京都内に少なくとも2~3ヵ所、恒常的なセミナーの学校を造り、短大、大学と一般教養も入れた大工職人学校が欲しい。
  - ◎経営重視のセミナーを実施してほしいと思う。
  - ◎教材をもっと多く使用していただければ、なおいいと思います。
  - ◎出来れば毎週ではなく、一週おきで一日行程で回数を減らし、朝からやってほしい(講習期間を長くしてほしい)(他1通)
  - ◎日大 野村先生の高齢化住宅は良かった。
  - ◎行政に関する講義をもう少し増やしても良いのではないか。例えば中小企業と経済状況など全体的な経済講義も欲しい。
  - ◎講習会場をもっと東京中央部(新宿・四ツ谷)にならないでしょうか。
  - ◎私はこれからの技術向上のため規矩術を覚えたい。今日の仕事にはあまり使用しないけど覚えておきたい。
  - ◎幅広い方向に向かって実施してほしい。

## 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（静岡）

- 1 平成5年2月12日（金） 午前10時～午後4時40分
- 2 静岡県産業経済会館
- 3 出席者数 静岡県木造住宅振興連絡会議員 152人
- 3 研修内容

### (1) 「地域工務店の実例に学ぶ若年技能者の確保育成のノウハウ」

神奈川県 鈴広ホーム 代表 鈴木広一氏

大変良かった	49.0%	}	96.0%
良かった	47.0%		
良くなかった	4.0%		

〔意見〕

- ・商売上の心配りを具体的に教えていただいた。
- ・分かりやすく、参考になった。
- ・実践派らしい、第一線の講師で良かった。
- ・必ず活かしたい、自信がついた。
- ・受け止め方次第では、手抜き工事の奨励のような気がした。

### (2) 「3階建木造住宅の設計と施工」

殖産住宅相互(株) 技術研究所 首席研究員 柳沼廣尚 氏

大変良かった	5.1%	}	60.2%
良かった	55.1%		
良くなかった	39.8%		

〔意見〕

- ・専門的で難しかった。
- ・3階建木造住宅のメリットを話してほしかった。
- ・具体的施工例を示してほしかった。
- ・時間をかけてじっくり聞きたい。

### (3) 「住宅ニーズと工務店戦略」

株式会社オプロード研究所 所長 野辺公一 氏

大変良かった	35.0%	}	98.9%
良かった	63.9%		
良くなかった	1.1%		

〔意見〕

- ・木造住宅の今後の方向に参考になった。
- ・今後の営業に役立つ。
- ・ニーズの分析が良かった。

〔研修全体への意見〕

- ・全体として大変良かった。
- ・年に1～2度、今回のような研修会を開催してほしい。
- ・これだけの会で終わらせるのはもったいないので、継続してほしい。

### (4) 今後の研修会への要望について

講師・テーマ

- ・労働力としての婦人について（桜井氏、樋口氏）
- ・需要掘り起しと差別化商品の提供方法（東日本ハウス社長）
- ・3階建住宅
- ・ホームリースタディグループ 富田辰雄氏

曜日

・平日	51.6%
・土曜日	19.4%
・日曜日	29.0%

# 木造建築担い手研修受講者アンケート結果 (福井)

1. 1月20日より、合計3回の研修会を開催しました。全体を通じての感想をお願いします。回答数 40名。 標章は回答数( )はパーセント

① あなたの参加の回数は、3回のうち \_\_\_\_\_ 回。 { 1回 5 (12) }  
 { 2回 8 (20) }  
 { 3回 27 (68) }

② 全体を通じて  
 (1) 大変よかった。大変勉強になった。 19 (48)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 21 (52)  
 (3) あまりよくなかった。 0 (0)

③ 来年の実施は、  
 (1) ぜひ来年も実施してほしい。 28 (70)  
 (2) どちらでもよい。 9 (23)  
 (3) 実施しなくてよい。 0

④ 研修会は来年も予定しています。今後の参考にしますので、やって欲しい企画・感想・ご意見など、ご自由に記入下さい。

やって欲しい企画  
 ◎ 木造3階建、在来工法をみて多く。◎ 建物の現地見学  
 ◎ 製材所、工務店の参観、残りの戦略 ◎ 同県内、県内、県外、県外  
 ◎ 文化財等と知家とした宮太の講義

2. 「木構造と本造3階建て住宅」の講演の感想をお書き下さい。  
 (1) 大変よかった。大変勉強になった。 6 (15)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 19 (48)  
 (3) あまりよくなかった。 4 (10)

3. 「福井の住宅とその特徴」の講演の感想をお書き下さい。  
 (1) 大変よかった。大変勉強になった。 11 (28)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 18 (45)  
 (3) あまりよくなかった。 0

4. 「割増融資工事について」の講演の感想をお書き下さい。

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 3 (8)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 21 (53)  
 (3) あまりよくなかった。 2 (5)

5. 「大断面集成材の利用」の講演の感想をお書き下さい。

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 15 (38)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 18 (45)  
 (3) あまりよくなかった。 1 (3)

6. 「木構造建築物の防火」の講演の感想をお書き下さい。

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 11 (28)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 20 (50)  
 (3) あまりよくなかった。 0 (0)

7. 「木造建築物の接合方法」の講演の感想をお書き下さい。

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 13 (33)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 17 (43)  
 (3) あまりよくなかった。 2 (5)

8. 「プレカットによる住宅生産システム」の講演の感想をお書き下さい。

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 9 (23)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 27 (68)  
 (3) あまりよくなかった。 0 (0)

9. 「工務店のための住宅づくりを考える」の講演の感想をお書き下さい。

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 14 (35)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 7 (18)  
 (3) あまりよくなかった。 2 (5)

10. 「プレカット工場見学」の感想をお書き下さい。(見学前にアンケートを出してもらった。)

(1) 大変よかった。大変勉強になった。 4 (10)  
 (2) 一部よかった。一部勉強になった。 2 (5)  
 (3) あまりよくなかった。 0



10、あなたが受講後に良かったと感じた講座は、（あてはまるもの全てに0印を付けてください）

- ①木造住宅の進むべき方向・製材業の経営戦略 ( 8 )
- ②これからの木造建築需要と大工技能者の役割 ( 8 )
- ③新世代の求める木造住宅 ( 7 )
- ④国産材の需要と供給 ( 5 )
- ⑤高齢者に配慮した住まい作り ( 9 )
- ⑥主婦の望む住まい作り ( 11 )
- ⑦木造建築のデザイン・木にこだわった住宅設計 ( 7 )
- ⑧新JAS制度の解説 ( 4 )
- ⑨3階建て木造住宅施工入門 ( 6 )
- ⑩これからの外材供給予測 ( 24 )

11、あなたが今後の研修会で希望する講座内容は、

- ・対象者別の講座
- ・木材需要拡大に向けての普及戦略
- ・乾燥に関する部分
- ・デザイン・コーディネート
- ・構造
- ・木造住宅設計の可能性
- ・今どきの住宅
- ・プレハブの今後の行方
- ・これからの外材供給予測
- ・今後の木材供給と需要の方向
- ・大手プレハブ住宅に負けない木造在来住宅の在り方
- ・これからの経営
- ・日本の森林を考える講座
- ・製材業の経営戦略
- ・これからの若い世代が希望する住宅設計
- ・木材の特性と利用の在り方
- ・新世代の求める木造住宅
- ・10-①②④⑩

12、あなたが今後の研修会で希望する時期は、

特に希望なし ( 2 )

- |          |          |          |           |
|----------|----------|----------|-----------|
| 1月 ( 4 ) | 4月 ( 4 ) | 7月 ( 1 ) | 10月 ( 6 ) |
| 2月 ( 7 ) | 5月 ( 3 ) | 8月 ( 2 ) | 11月 ( 3 ) |
| 3月 ( 9 ) | 6月 ( 5 ) | 9月 ( 1 ) | 12月 ( 1 ) |

13、あなたが今後の研修会で希望する日取りは、

- ①月曜日～金曜日 ( 22 )
- ②土曜日 ( 19 )
- ③日曜日・祝祭日 ( 15 )
- ④その他 ( 0 )

14、あなたが今後の研修会で希望する時間帯は、

- ①1日(9時～16時) ( 27 )
- ②午後(13時～17時) ( 23 )
- ③宿泊付き(1泊2日) ( 1 )

15、あなたの自由意見

- ・来年は一つのテーマにしぼって、講演+パネルディスカッション形式にしてほしい。
- ・3日間受講したが、大変参考になった。
- ・講師の説明、マイクの活用が不十分な為聞き取りにくかった。
- ・もっと早く、前もって参加人数を取るようすべき。
- ・講座は良かったが、資料が非常に見にくいのが多かった。
- ・音響設備を整えてほしい。
- ・3日間とも受講することが出来ないため、もう一度セミナーを開いてほしい。

# 木造建築担い手研修受講者アンケート結果（兵庫）

## 1. 兵庫県のアナケート結果（回答者数 45 名）

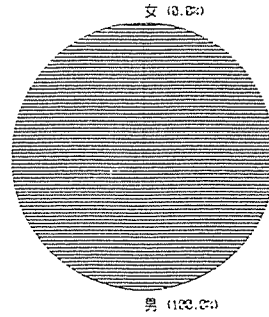
### (1) アンケート数値結果

#### ① 受講者の性別

男性が 100% を占めている。

#### 性別割合

男	100.0%	45
女	0%	0
合計	100.0%	45

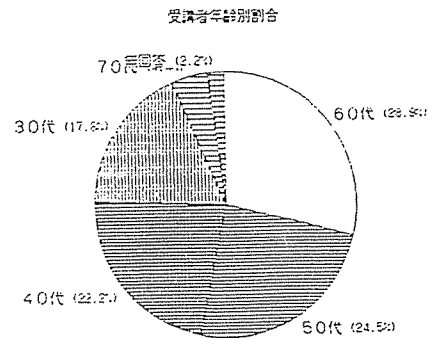


#### ② 受講者年齢

受講者の年齢は、60歳代が最も多く 28.9% となっており、次いで 50歳代 24.5%、40歳代 22.2% となっている。

#### 年齢別割合

60代	28.9%	13
50代	24.5%	11
40代	22.2%	10
30代	17.8%	8
70代以上	4.4%	2
無回答	2.2%	1
合計	100.0%	45

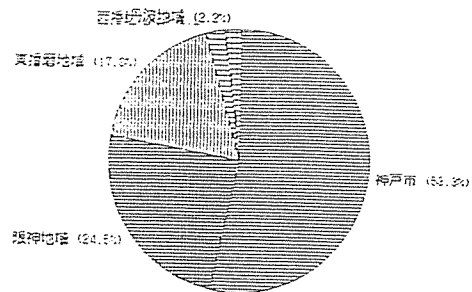


#### ③ 受講者の住まい

神戸市内に居住する受講者が 53.3% を占めている。

#### 住所別割合

神戸市	53.3%	24
阪神地域	24.5%	11
東播磨地域	17.8%	8
西播磨地域	2.2%	1
丹波地域	2.2%	1
合計	100.0%	45

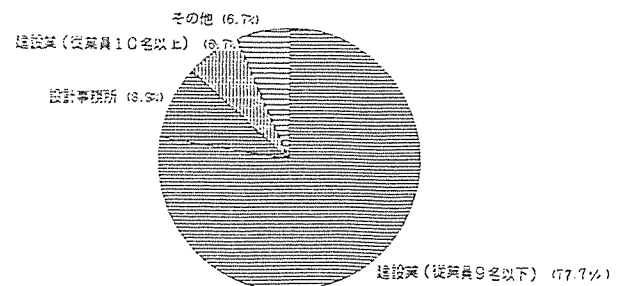


#### ④ 受講者の勤務先

受講者の勤務先は、従業員 9 名以下の建設業で 77.7% を占め、次いで設計事務所 8.9% である。

#### 勤務先別割合

建設業（従業員 9 名以下）	77.7%	35
設計事務所	8.9%	4
建設業（従業員 10 名以上）	6.7%	3
その他	6.7%	3
合計	100.0%	45

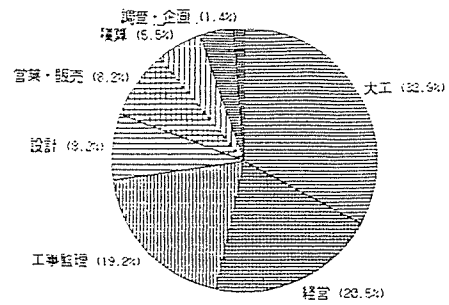


⑤受講者の従事している仕事（複数回答）

受講者の従事している仕事は、「大工」32.9%、「経営」20.5%、「工事監理」19.2%の順となっている。

主な仕事別割合

大工	32.9%	24
経営	20.5%	15
工事監理	19.2%	14
設計	8.2%	6
営業・販売	8.2%	6
積算	5.5%	4
その他	4.1%	3
調査・企画	1.4%	1
合計	100.0%	73

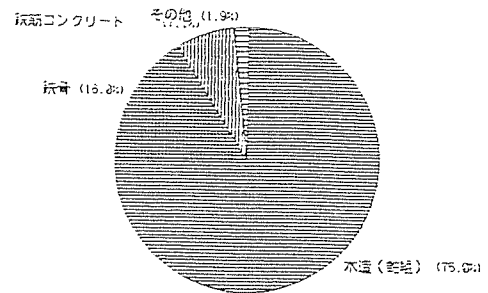


⑥会社が主に取り扱っている建築構造の種類

受講者の属している企業が取り扱っている建築構造の種類としては、木造（軸組）75%と木造が中心となっている。

建築構造種別割合

木造（軸組）	75.0%	42
鉄骨	16.0%	9
鉄筋コンクリート	7.1%	4
その他	1.9%	1
合計	100.0%	56

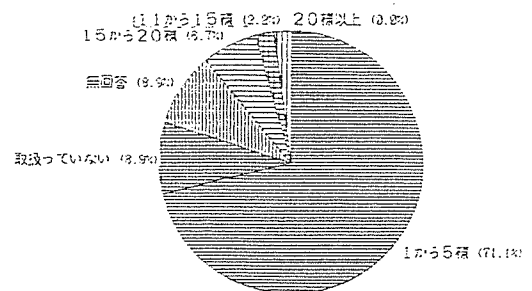


⑦木造供給戸数

受講者の属している企業が平成4年に供給した木造住宅の棟数を見ると、年間1～5棟が71.1%である。また、木造住宅を取り扱っていないのは8.9%であった。

昨年1年間に取り扱った木造住宅

1～5棟	71.1%	32
取り扱っていない	8.9%	4
無回答	8.9%	4
15～20棟	6.7%	3
6～10棟	2.2%	1
11から15棟	2.2%	1
20棟以上	0%	0
合計	100.0%	45



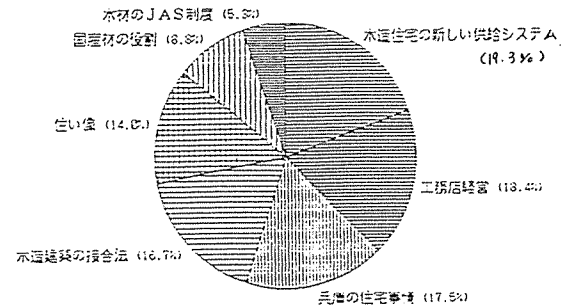


⑧ 期待した講座（複数回答）

受講者が受講申込み時に期待した講座を見ると、「木造住宅の新しい供給システム」19.3%、「工務店経営－私の場合－」18.4%、「ひょうごの住宅事情と今後の展望」17.5%の順となっている。

期待していた講座

木造住宅の新しい供給システム	19.3%	22
工務店経営－私の場合－	18.4%	21
ひょうごの住宅事情と今後の展望	17.5%	20
木造建築の接合法	16.7%	19
住まい像・主婦の望む「住まい」とは	14.0%	16
木造建築と国産材の役割	8.8%	10
木材のJAS制度とその活用について	5.3%	6
合計	100.0%	114

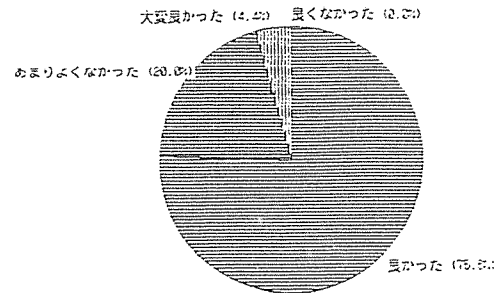


⑨ 期待した講座に対する評価

受講者が期待した講座に対する評価は、良かった75.6%となっている。

期待していた講座に対する評価

良かった	75.6%	34
あまり良くなかった	20.0%	9
大変良かった	4.4%	3
良くなかった	0%	0
合計	100.0%	45



⑩ 期待した講座が良くなかったと感じる理由

期待した講座で「あまり良くなかった」と答えた受講者は20.0%（実数9名）であったが、「あまり良くなかった」理由としては、「期待していた内容と違って」が44.5%（4名）、「内容が抽象的だった」33.3%となっている。又、その他として、話の内容に一貫性が欠けている、スライドが不鮮明であるという意見が聞かれた。

期待した講座が良くなかった理由

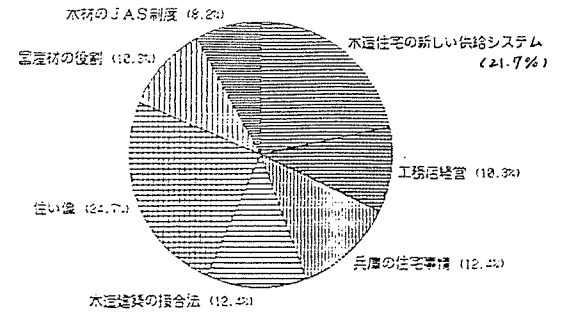
内容の違い	44.5%	4
抽象的	33.3%	3
知っていたことが多い	11.1%	1
その他	11.1%	1
難しい	0%	0
合計	100.0%	9

⑩良かった講座（複数回答）

受講後の良かったと感じた講座は「住まい像・主婦の望む「住まい」とは」24.7%、「木造住宅の新しい供給システム」21.7%、となっている。

良かった講座

住まい像・主婦の望む「住まい」とは	24.7%	24
木造住宅の新しい供給システム	21.7%	21
木造建築の接合法	12.4%	12
ひょうごの住宅事情と今後の展望	12.4%	12
木造建築と国産材の役割	10.3%	10
工務店経営—私の場合—	10.3%	10
木材のJAS制度とその活用について	8.2%	8
合計	100.0%	97

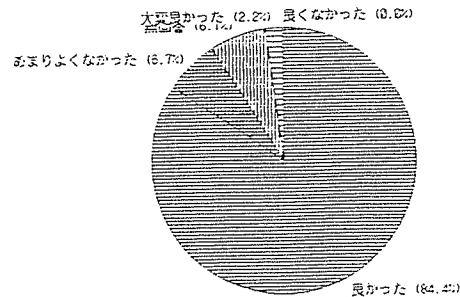


⑪研修会全体に対する評価

研修会全体に対する評価としては「良かった」84.4%となっている。

研修会全体の評価

良かった	84.4%	38
あまり良くなかった	6.7%	3
無回答	6.7%	3
大変良かった	2.2%	1
良くなかった	0%	0
合計	100.0%	45



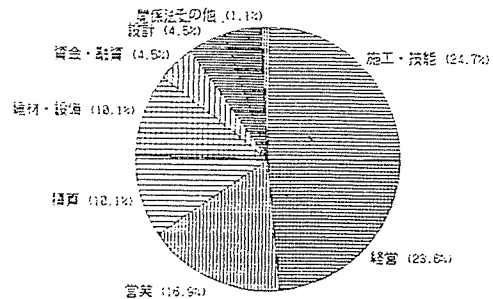
⑫今後希望するテーマ

今後希望する研修会のテーマとしては、「施工・技能」24.7%、「経営」23.6%、「営業」16.9%となっている。  
このことを供給機能別に見てみると、

- ①経営系 「経営」23.6%、「資金融資」4.5%
  - ②生産系 「施工・技能」24.7%、「建材・設備」10.1%
  - ③営業系 「営業」16.9%、「関係法律」4.5%
  - ④設計系 「積算」10.1%、「設計」4.5%
- となっている。

希望の研修会テーマ

施工・技能	24.7%	22
経営	23.6%	21
営業	16.9%	15
積算	10.1%	9
建材・設備	10.1%	9
資金・融資	4.5%	4
設計	4.5%	4
関係法律	4.5%	4
その他	1.1%	1
合計	100.0%	89

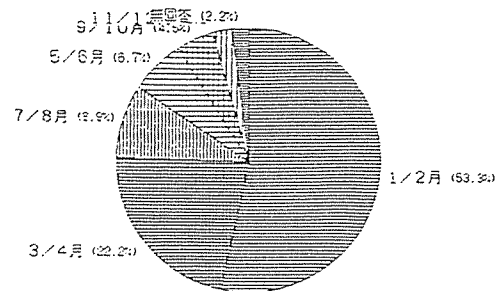


⑭今後の研修の実施時期

今後の希望する研修の時期としては、「1・2月」53.3%、「3・4月」22.2%となっている。

研修の希望時期

1・2月	53.3%	24
3・4月	22.2%	10
7・8月	8.9%	4
5・6月	6.7%	3
9・10月	4.5%	2
11・12月	2.2%	1
無回答	2.2%	1
合計	100.0%	45



(2)自由記述

①「現在の仕事を続けていく上で、今後習得したいと考えている技術や技能・知識について」

- ・産業廃棄物処理業許可（東播磨地域、30代）
- ・建物構造計算（阪神地域、30代）
- ・木造住宅の新しい供給システム（東播磨地域、70代）
- ・建築士（神戸市、30代）
- ・プレカットをうまく組み込んだ住宅のメンテナンス（神戸市、30代）
- ・技能士1級（神戸市、30代）
- ・住み方、内装の知識の習得（阪神地域、50代）
- ・積算、設備（東播磨地域、40代）
- ・設備、法律、設計（神戸市、50代）
- ・資金・融資についてもっと知りたい（東播磨地域、30代）
- ・新しい工法、建築の本を買ってもほとんど同じ工法である、工法そのものが電動工具主体となってきた関係で、新しい工法を習得したい
- ・建築施工管理技士（阪神地域、40代）

②その他自由意見

- ・講義内容は大変ためになりました。これからも技能についての講義もやってほしい（阪神地域、50代）
- ・このような学習会があるということをもっと大々的に知らせて多くの人々に受講してもらいたいと思う（神戸市、30代）
- ・実際の現場での仕事内容（在来につき手・差し口等）、職人になる人への養成方法、これからの大工経営など研修をしてほしい（神戸市、50代）
- ・最近の材料（新建材）の高さ・品不足ののりきり方、仕入れ先・施主への説明の仕方など、現場の苦しみのお話し合いの場がほしい。（神戸市、50代）
- ・3Kといわれて若い人が育たない理由については、少し3Kにこだわり過ぎているのではないか、他にもっと大きな理由があるように思いますが、先人として日常、憧れを持たれるような生活態度も必要ではないか、夢を与えられるような自分自身の人格形成が今、後継者作りの急務のように思います（神戸市、60代）
- ・田中社長の工務店経営については身につまされる実感のこもった講演であり、今後の経営・営業に対して活用したい（神戸市、60代）
- ・町場の工務店が今後生き残れるようにするにはどうすればよいか。営業方面のコツ

を教えてください。(阪神地域. 60代)

- ・今回参加して、今の建築産業の実情が分かり、大変勉強になりました。今後益々、建物も多様化して来ると思う。我々、若い層が考えていかなければならないと思いました。(東播磨地域. 30代)
- ・田中先生の話をもとにして間取を取って行きたいと思う(阪神地域. 60代)
- ・このような会を3年から4年に1回(阪神地域. 50代)